

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

令和2年度 事業実施成果報告書

新たな流れと広がりを
次代の波に変えていく。

令和3(2021)年3月

まえがき

2014（平成 26）年度からスタートした文部科学省の事業『課題解決型高度医療人材養成プログラム』に採択されたプログラム『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン』（認プロ）は、“認知症の真のプロフェッショナル”（認プロ）の育成を目標とし、北陸医科系 4 大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）の拠点ネットワークを中核に関連医療機関等が連携して取り組んできました。2018（平成 30）年度で文部科学省による支援は終了し、2019（令和元）年度からは 4 大学の自己資金に基づく事業となり、この 2020（令和 2）年度も認プロを継続することができました。お力添えをいただきました関係各位に心より感謝いたします。

この 2020（令和 2）年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に翻弄された 1 年でした。2020 年、中国湖北省武漢市で最初に感染が拡大した COVID-19 が世界的な大流行になりました。3 月 11 日、WHO はパンデミックを宣言しました。認プロでは、2019 年度まで、毎月のデメンシアカンファレンスを参加施設の会場を結ぶテレビ会議システムで開催し、それをウェブ配信していましたが、各施設で会場に集合することが困難になったため、2020 年 4 月は開催を見合わせ、5 月以降はウェブ上でデメンシアカンファレンスあるいはデメンシアセミナーを開催いたしました。その結果、認プロは、ウェブ上での e-learning 講義に加え、カンファレンスやセミナーも完全にウェブ上で行われることになりました。また、各種委員会もウェブ会議システムを利用したオンライン開催で実施しております。このように、認プロはまさにウィズ・コロナの時代にも適合した認知症プロフェッショナルの育成プログラムとなっております。おかげさまで、北陸のみならず全国から約 2,300 名の方が、コース履修者（医師、歯科医師）あるいはメディカルスタッフ e-learning 講座受講者（看護、介護、リハビリ関係、薬剤師、研究者など）として登録されております。認プロにご参加くださっている方々、認プロ事業の運営に携わる各種委員会の先生方、外部から認プロをご指導くださるアドバイザーボードや運営協議会の方々、各施設の事務担当者の方々に心より感謝申し上げます。

さて、2019（令和元）年の通常国会に提出された『認知症基本法案』はコロナ禍の影響と思いますが継続審議になっております。いずれ基本法は策定され、認知症に関わる医学、医療、福祉、街づくりなどの多様な領域で施策や研究が急速に推進されていくことになると思います。その際、すべての要になるのは、認知症に関わる諸領域の未来を担う人材の育成です。今後、認プロのような人材育成プログラムの必要性・重要性はますます高まるものと考えられ、認プロ教育拠点の全国展開、認プロコースの医師以外の職種への拡大、認知症予防へ向けた展開など、さらなる発展をめざしてまいります。

私は 2021 年 3 月末に金沢大学を定年で退職いたしますので、認プロのプロジェクトリーダーを同時に退任することになります。2014 年以来 7 年間に渡り、プロジェクトリーダーとして認プロで多くのことを学ばせていただきました。この場をお借りいたしまして、皆様のご指導、ご支援に厚く御礼申し上げます。今後はアドバイザーの立場で認プロを支援していきたいと存じます。

今後ともよろしく認プロをご指導、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

2021（令和 3）年 3 月

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

プロジェクトリーダー 山田 正仁

[金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 脳老化・神経病態学（脳神経内科学）教授]

目 次

まえがき

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

プロジェクトリーダー 山田 正仁

I. 事業説明	1
1. 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)の事業概要と経過	1
2. 認プロの事業体制	2
II. 令和元年度事業実施報告	3
1. 令和2年度における認プロの活動状況	3
2. 令和3年度以降の事業計画の策定	9
3. 令和3年度教育コース履修者等の募集	10
III. アドバイザリーボードによる外部評価とそれに基づく改善	11
1. アドバイザリーボードのメンバー紹介	11
2. 令和元年度の評価結果に基づく改善	12
3. 令和2年度の評価結果とアドバイザリーボードにおける審議	12
IV. 参考資料	17
資料1 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ	18
資料2 事業推進委員会委員名簿	21
資料3 教務委員会委員名簿	22
資料4 運営協議会委員名簿	23
資料5 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定	24
資料6 令和2年度 第1回教務委員会議事概要	26
資料7 令和2年度第1回運営協議会議事概要	27
資料8 令和3年度 メディカルスタッフ e-learning 講座のご案内リーフレット	29
資料9 認知症プロフェッショナル科目 講義シラバス	31
資料10 認知症診療実践ハンドブック (第1版)	42
資料11 デメンシアカンファレンス(DC)の運営手順	43
資料12 令和2年度 デメンシアカンファレンス	45

資料 1 3	教育コース履修者アンケート回答	4 8
資料 1 4	令和 2 年度第 1 回事業推進委員会議事概要	5 0
資料 1 5	令和 3 年度 教育コース履修者募集要項	5 1
資料 1 6	令和 3 年度 履修案内パンフレット	6 8
資料 1 7	令和 3 年度 地域認知症専門医師研修（インテンシブ）コースのご案内 リーフレット	7 1
資料 1 8	令和元年度 アドバイザリーボード評価	7 3

I . 事 業 說 明

I. 事業説明

1. 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)の事業概要と経過

平成26(2014)年5月2日に文部科学省の新規事業「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の公募があった。このプログラムは、高度な教育力・技術力を有する大学が核となって教育プログラムを実践・展開することにより、わが国が抱える医療現場の課題に対して科学的根拠に基づいた医療が提供できる高度医療専門人材を育成し、課題を解決し健康立国・健康長寿社会を実現しようとするものである。私達は、わが国の高齢化に伴う認知症の人の急増、認知症医療に携わる高度専門人材の不足の問題を解決し、最先端の知識・診療技能、地域において認知症の人や家族に対して幅広い支援ができる多職種連携力、未来の認知症医療・予防を創造する研究力を備えた真の認知症プロフェッショナル医師を養成するために、「医師・歯科医師を対象とする人材養成」の取組の中の「特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成：難治性疾患診断・治療領域」において、北陸医科系4大学の拠点ネットワークを構築して認知症に焦点を当てたプログラム「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)」を作成し(図1. 認プロ概要図)、同年6月2日に文部科学省へ申請書を提出した。7月28日に「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択され、9月10日付けで北陸医科系4大学により「文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定」を締結し、事業体制を構築、運営を開始した。

その後、平成31(2019)年3月31日をもって5年間に渡る文部科学省の補助金事業は終了したが、同年4月1日付けで、北陸医科系4大学により新たに「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定」を締結、各大学の自己資金に基づく事業として継続し、現在に至っている。

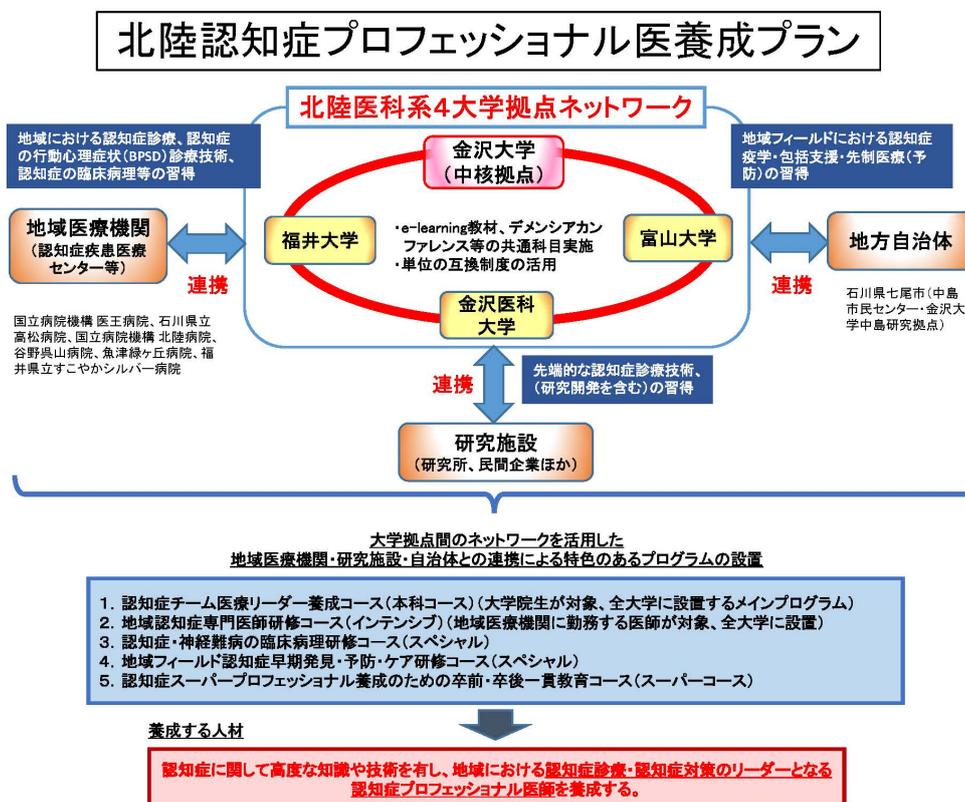


図1. 認プロ概要図

2. 認プロの事業体制

認プロの運営組織は「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ」（【資料1】18～20ページ）に則り組織した。認プロ運営組織図(図2)に示す。

- 事業推進委員会は認プロ事業の運営のための組織であり、認プロを構成する大学の主要メンバーである委員11名よりなる（【資料2】21ページ）。
- 教務委員会は教育コース等を実施するための組織であり、構成大学や連携医療機関の委員29名よりなる（【資料3】22ページ）。
- 運営協議会は認プロ事業の実施にあたり関係団体からの意見を求めるためのものであり、北陸各県の行政、医師会、関連地域医療機関などからの委員24名よりなる（【資料4】23ページ）。
- アドバイザーボードは認プロの外部評価のための組織であり、認知症の専門家の立場、地域医療連携の立場、国民一般の立場等を代表する外部委員4名よりなる（11ページ）。

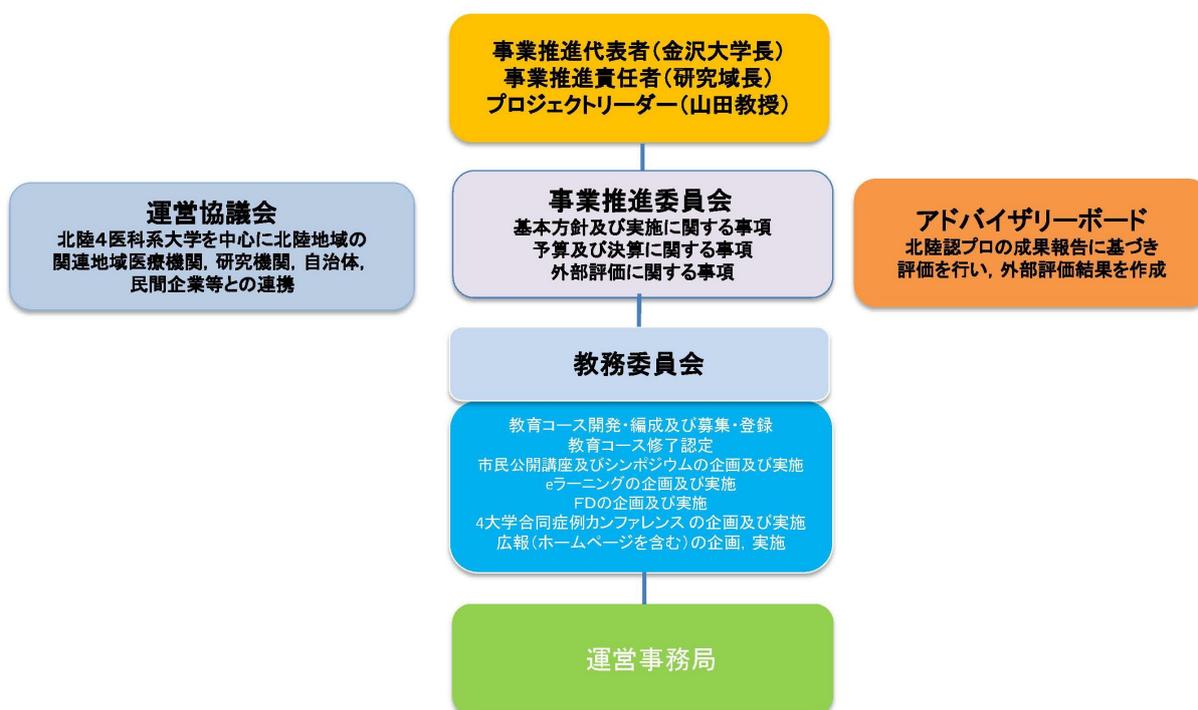


図2. 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)運営組織図

Ⅱ. 令和2年度事業実施報告

II. 令和2年度事業実施報告

1. 令和2年度における認プロの活動状況

1) 事業推進計画の策定及び推進

a. 令和2年度の事業推進計画

令和2年度の事業推進計画を、令和2年2月12日開催の「令和元年度第1回事業推進委員会」における審議の結果に基づき策定した。

b. 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定に基づく事業の継続

平成31年3月31日をもって文部科学省の補助金事業「課題解決型高度医療人材養成プログラム」が終了したため、平成31年4月1日付けで、金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学の4大学間で新たに「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定」(【資料5】24・25ページ)を締結した。令和元年度よりこの協定に基づき各大学において予算を確保し、当事業の実施を継続している。

c. 教務委員会の開催

令和2年9月8日に、書面付議により「令和2年度第1回教務委員会」を開催した。協議事項は以下のとおりである。協議内容の概要を(【資料6】26ページ)に示す。

<協議事項>

- (1) 教育コース履修者(本科コース)の修了判定
- (2) 教育コース履修者(インテンシブコース)の修了判定

d. アドバイザリーボードの評価

アドバイザリーボード委員による外部評価を、書面により令和2年12月に実施した。評価の結果(13~16ページ)を、令和3年2月1日に開催した「令和2年度第1回事業推進委員会」にて報告し、令和3年度以降の事業計画に反映させた。

e. 運営協議会の開催

令和3年2月1日、Web会議システムを利用し、「令和2年度第1回運営協議会」を開催した(【資料7】27~28ページ)。運営協議会では、北陸3県の自治体、医師会、地域医療機関等から委員の指導、助言を受け、その結果は、同日開催の「令和2年度第1回事業推進委員会」において、令和3年度以降の事業計画策定のための審議に反映させた。

2) 教務関係の活動

a. 教育コース履修者の受入

平成27年4月から、金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学において教育コース履修者の受入を開始した。令和元年度のアドバイザリーボード委員による外部評価に基づき、教育コース履修者の充足数の改善を図るため、募集人員の見直しを行い、全コース累計募集人数を16名に削減した。今年度は、令和3年3月1日現在、4大学、全コース累計で募集人員1

6名／年に対し6名が新規に履修を開始しており、令和2年9月には本科コース1名及びインテンシブコース2名が修了した。(表1)。令和3年3月1日現在、コース別の履修者数は、【本科コース】19名、【インテンシブコース】52名、【スペシャルコース】5名、【スーパーコース】2名である。

表1. 各教育コース募集人員および履修者・修了者数(令和3.3.1現在)

大学名	教育コース名	修業 年限	募集人員 ／年	履修開始者数(名)						修了者数 (累計)
				H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R元 年度	R2 年度	
金沢大学	認知症チーム医療リーダー養成 コース(本科コース)	4年	3名 (令和元年度) 2名 (令和2年度)	5	1	2	0	0	2	0名
	地域認知症専門医師研修コース (インテンシブ)	1年	3名 (令和元年度) 2名 (令和2年度)	1	16	10	7	2	3	10名
	認知症・神経難病の臨床神経病理 研修コース(スペシャル)	1年	2名 (令和元年度) 1名 (令和2年度)	0	1	2	0	0	0	0名
	地域フィールド認知症早期発見・ 予防・ケア研修コース(スペシャ ル)	1年	2名 (令和元年度) 1名 (令和2年度)	0	1	0	0	1	0	0名
	認知症スーパープロフェッショナル 養成のための卒前・卒後一貫 教育コース(スーパーコース)	8年	1名	1	0	1	0	0	0	0名
富山大学	認知症チーム医療リーダー養成 コース(本科コース)	4年	1名	1	0	2	0	0	0	1名
	地域認知症専門医師研修コース (インテンシブ)	1年	2名	2	5	2	0	1	0	3名
福井大学	認知症チーム医療リーダー養成 コース(本科コース)	4年	1名	1	2	2	0	0	1	1名
	地域認知症専門医師研修コース (インテンシブ)	1年	2名	2	12	3	2	0	0	5名
金沢医科 大学	認知症チーム医療リーダー養成 コース(本科コース)	4年	3名 (令和元年度) 1名 (令和2年度)	3	1	0	0	0	0	0名
	地域認知症専門医師研修コース (インテンシブ)	1年	3名 (令和元年度) 2名 (令和2年度)	5	1	0	1	0	0	0名
合計			23名 (令和元年度) 16名 (令和2年度)	21	40	24	10	4	6	20名

※金沢医科大学の本科コースに2名、インテンシブコースに4名、福井大学のインテンシブコースに1名辞退あり。

b. 認知症メディカルスタッフ e-learning 講座の開設と受講者の受入

平成27年度より開設している、認知症メディカルスタッフ e-learning 講座の紹介リーフレット(【資料8】29・30ページ)を全国の認知症学会専門医教育施設へ送付する広報を行っている。令和3年3月1日現在、自己研鑽のための個人での受講は222名、医療施設内の研修等を目的として21施設1,964名、合計2,186名が受講中である(表2)。合計2,186名の内、北陸地域以外の受講者数は、625名である。

表2. 認知症メディカルスタッフ e-learning 講座職種別受講者数(令和3.3.1現在)

職種	個人 受講者数	施設単位 受講者数	合計
看護師	89名	1,709名	1,798名
臨床検査技師	6名	11名	17名
放射線技師	2名	2名	4名
理学療法士	6名	38名	44名
作業療法士	14名	34名	48名
言語聴覚士	4名	18名	22名
臨床心理士/公認心理師	12名	6名	18名
薬剤師	28名	13名	41名
歯科衛生士	2名	1名	3名
保健師	4名	0名	4名
社会福祉士	2名	6名	8名
精神保健福祉士	4名	9名	13名
介護施設管理者	1名	4名	5名
介護支援専門員	7名	7名	14名
介護福祉士	7名	31名	38名
訪問介護員	1名	6名	7名
介護・生活相談員	3名	9名	12名
管理栄養士	1名	10名	11名
ソーシャルワーカー	4名	9名	13名

研究者	8名	0名	8名
医療情報担当者	6名	0名	6名
その他医療関係者等	11名	41名	52名
合計	222名	1,964名	2,186名

c. プロフェッショナル科目の提供

認知症プロフェッショナル科目のうち e-learning による講義科目は、全40コマを提供している(表3)。e-learning 講義科目の講義シラバスを(【資料9】31~41ページ)に示す。

表3. e-learning 講義科目一覧

科目	回	テーマ	授業担当者名	授業担当者所属
1 認知症基礎	1	認知症の概要と疫学	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	2	認知症の病理学	坂井 健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
	3	認知症の分子遺伝学	濱口 毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
	4	認知症の神経化学(神経伝達物質)・神経免疫学	岩佐 和夫	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	5	認知症の蛋白化学	小野 賢二郎	昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門
	6	アミロイドーシスの分子機構	内木 宏延	福井大学医学部 分子病理学
2 認知症症候学	1	認知症の中核症状と BPSD	上原 隆	金沢医科大学 精神神経科学
	2	老年期の精神障害と認知症	川崎 康弘	金沢医科大学 精神神経科学
	3	老年期の気分障害と認知症	北村 立	石川県立高松病院 神経内科
	4	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症	田中 悠二	埼玉県立精神医療センター
	5	軽度認知障害	池田 篤平	石川県立中央病院 神経内科
	6	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応	大黒 正志	金沢医科大学 高齢医学
3 認知症検査・診断学	1	認知症診療に必要な神経心理検査	東間 正人	医療法人社団青樹会 青和病院
	2	認知症の画像検査 1 (CT, MRI, MIBG, DAT imaging)	吉田 光宏	独立行政法人国立病院機構 北陸病院
	3	認知症の画像検査 2 (脳血流 SPECT, FDG-PET, アミロイド PET)	松成 一朗	埼玉医科大学病院 核医学診療科
	4	認知症の血液・脳脊髄液検査	篠原 もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
	5	認知症の神経生理検査-脳波-	東間 正人	医療法人社団青樹会 青和病院
	6	認知症診断のすすめ方	池田 篤平	石川県立中央病院 神経内科
4 認知症治療・予防学	1	認知症の治療総論(薬物, ケア, リハビリ, 終末期医療をふくむ)	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター
	2	高齢者の薬物動態	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター
	3	抗認知症薬	濱野 忠則	福井大学医学部 病態制御医学内科学 (2)
	4	BPSD の治療	橋本 隆紀	金沢大学大学院 精神行動科学
	5	生活習慣と認知症予防	篠原 もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座

5 認知症ケア・リハビリ 地域支援・倫理	1	認知症のケアとリハビリの基本・原則	木戸 幹雄	富山大学附属病院 神経精神科
	2	認知症ケアの実践	島崎 正夫	医療法人社団和敬会 谷野呉山病院
	3	認知症リハビリの実践	横川 正美	金沢大学保健学系理学療法科学
	4	社会環境・資源 1 (認知症に関わる制度・政策)	北村 立	石川県立 高松病院
	5	社会環境・資源 2 (生活支援と地域連携)	北村 立	石川県立 高松病院
	6	認知症の人への配慮、法・倫理	北村 立	石川県立 高松病院
6 認知症各論 I	1	アルツハイマー病	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	2	レビー小体型認知症	吉田 光宏	独立行政法人国立病院機構 北陸病院
	3	前頭側頭葉変性症	鈴木 道雄	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
	4	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症	坂井 健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
	5	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
7 認知症各論 II	1	血管性認知症	高嶋 修太郎	JCHO 高岡ふしき病院
	2	正常圧水頭症, 慢性硬膜下血腫, 頭部外傷	富岳 亮	金沢医科大学 氷見市民病院 脳神経内科
	3	代謝性疾患, 炎症性疾患, その他	林 浩嗣	新田塚学園福井医療短期大学 リハビリテーション学科
	4	プリオン病	濱口 毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
	5	認知症と鑑別すべき精神疾患	高橋 努	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
	6	若年性認知症	濱野 忠則	福井大学医学部 病態制御医学内科学 (2)

d. 認知症診療実践ハンドブック（第2版）の出版

認プロ e-learning 講義担当教員が主に執筆した、e-learning のテキストに該当する「認知症診療実践ハンドブック」の第1版（平成29年11月出版）（【資料10】42ページ）を改訂し、第2版を今年度中に出版する予定である。テキスト内容の改訂に加え、平成30年度のアドバイザリーボード評価表をもとに、「認知症の嚥下障害と嚥下リハビリテーション」の記事など、複数項目を追加する予定である。

e. デメンシアカンファレンス及びデメンシアセミナーの開催

平成26年度末に策定し、平成30年3月14日の「平成29年度第3回教務委員会」で改定を行った「デメンシアカンファレンス(DC)の運営手順」(【資料11】43・44ページ)に基づき、10施設(金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、国立病院機構医王病院、石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院、医療法人社団和敬会谷野呉山病院、医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院)をテレビ会議システム及び Web 会議システムで結び、デメンシアカンファレンスを毎月1回開催している。デメンシアカンファレンスは、認知症プロフェッショナル科目の1コマ分に充当する(表4)。

平成29年度から、テレビ会議システムの他に Web 会議システムによる配信をスタートした。これにより、テレビ会議システムを設置する10施設での参加が難しい遠方の教育コース履修者も、全国どこからでも参加が可能となり、参加者が増加するとともに、単位の取得が促進され、修了者の増加が見込まれた。

令和2年春から新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行拡大がみられるようになった。そのため、令和2年4月21日に開催予定であった第61回デメンシアカンファレンスは、COVID-19 流行の拡大を踏まえ、開催者である金沢医科大学の意向により中止となった。令和2

年5月以降のデメンシアカンファレンスについては、テレビ会議システムによる集合形式での開催を見合わせ、代わりにデメンシアカンファレンスもしくはデメンシアセミナーを Web 上で開催している。なお、Web 上で開催したデメンシアカンファレンス及びデメンシアセミナーは、リアルタイムで視聴できない参加者の為に録画し、次回のデメンシアセミナー開催までの間あるいは1か月間、パスワードとIDを所有する人が視聴できるようにしており、認プロのホームページ上に案内を掲載している。

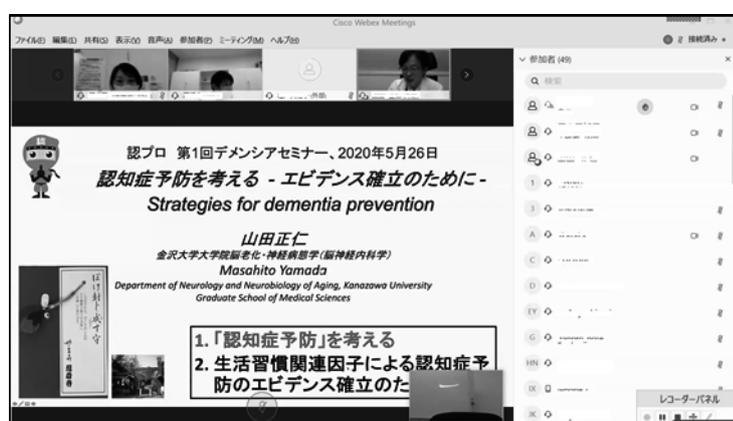
令和2年5月から令和3年2月までに開催された第62回から第69回までのデメンシアカンファレンス及び第1回から第2回までのデメンシアセミナーに延べ412名が参加し、うち教育コース履修者は延べ102名であった。各施設から診断や治療に難渋した症例が提示され、毎回活発な議論が行われている(図3)(【資料12】45～47ページ)。

表4. 令和2年度デメンシアカンファレンス

回	開催日	担当大学等	症例
第61回	令和2/ 4/21	金沢医科大学	中止
第1回 デメンシア セミナー	5/26	金沢大学	演題：認知症予防を考える-エビデンス確立のために 演者：金沢大学大学院 脳老化・神経病態学(脳神経内科学) 山田正仁
第62回	6/9	富山大学	筋委縮性側索硬化症に認知症を合併した1例
第2回 デメンシア セミナー	7/21	福井大学	演題：認知症とタウ蛋白 演者：福井大学医学部病態制御医学内科学(2) 濱野忠則
第63回	8/3	金沢医科大学	比較的急激に易怒性, 攻撃性を呈し血管性の前頭型認知症が鑑別として疑われた症例
第64回	9/15	金沢大学	亜急性に記憶障害が進行した抗LGI-1抗体陽性辺縁系脳炎の一例
第65回	10/20	富山大学	アルコール離脱に伴い意識障害を呈し、巧緻運動障害と構音障害が残存した一例
第66回	11/24	福井大学	臨床症状と画像検査で乖離した所見であった認知症の高齢者女性
第67回	12/16	金沢医科大学	治療同意に難渋した一例

第 68 回	令和 3/ 1/26	金沢大学	末梢神経障害と認知機能低下を伴い、MRI で脳梁膨大部に異常信号を認めた 1 例
第 69 回	2/9	富山大学	混合性結合組織病 (MCTD) の経過中、末梢神経障害と認知機能障害を認め、MRI で脳梁膨大部が異常信号を呈した 1 例
第 70 回	3/10	福井大学	非流暢/失文法型と Logopenic 型が混在した混合性原発性進行性失語症 (mixed variant Primary Progressive Aphasia:mvPPA) と考えられたアルツハイマー病の 1 例

図 3. 第 1 回デメンシアセミナー(令和 2. 5. 26) : 山田正仁教授 (金沢大学)



f. 教育コース履修者へのアンケート調査の実施

令和 2 年 6 月に教育コース履修者・修了者を対象にアンケート調査を実施した (【資料 1 3】48・49 ページ)。

2. 令和 3 年度以降の事業計画の策定

a. 事業推進委員会の開催

「令和 2 年度第 1 回事業推進委員会」(令和 3 年 2 月 1 日開催)において、アドバイザーボードによる評価結果及び「令和 2 年度第 1 回運営協議会」(令和 3 年 2 月 1 日開催)の意見を踏まえ、令和 3 年度以降の事業実施計画について審議し、令和 3 年度の事業計画を策定した (【資料 1 4】50 ページ)。

教育コース履修者に対する認知症プロフェッショナル科目の提供を含め、令和 3 年度に予定している事業計画は以下のとおりである。

- (1) 教務委員会(適時)の開催(Web 会議システムを利用したオンライン会議)
- (2) アドバイザーボードの開催(書面による開催)
- (3) 運営協議会(年 1 回)の開催(Web 会議システムを利用したオンライン会議)
- (4) 事業推進委員会(年 1 回)の開催(Web 会議システムを利用したオンライン会議)
- (5) デメンシアカンファレンス(毎月 1 回)の開催(継続)(Web 会議システム)
- (6) 認プロ e-learning 講義科目の提供

(7) 認知症メディカルスタッフ e-learning 講座の提供

(8) Web セミナー・FD 講演会の開催（年間各 1 回程度）（Web 会議システムを利用したオンライン開催）

3. 令和 3 年度教育コース履修者等の募集

令和 2 年度アドバイザーボードによる書面での外部評価の結果、「令和 2 年度第 1 回運営協議会」（令和 3 年 2 月 1 日開催）における指導、助言、「令和 2 年度第 1 回事業推進委員会」（令和 3 年 2 月 1 日開催）での審議も踏まえ、「令和 3 年度教育コース履修者募集要項」（【資料 15】51～66 ページ）及び「令和 3 年度履修案内」パンフレット（【資料 16】67～70 ページ）、「地域認知症専門医師研修（インテンシブ）コースのご案内」（【資料 17】71・72 ページ）、「認知症メディカルスタッフ e-learning 講座のご案内」（【資料 8】29・30 ページ）を作成した。

Ⅲ. アドバイザリーボードによる 外部評価とそれに基づく改善

Ⅲ. アドバイザリーボードによる外部評価とそれに基づく改善

1. アドバイザリーボードのメンバー紹介

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン アドバイザリーボード・委員

氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	委員会における役割
中島 健二	国立病院機構松江医療センター 名誉院長 鳥取大学 名誉教授	認知症の専門家(神経内科領域)からの委員
天野 直二※	岡谷市民病院 事業管理者/病院長 信州大学 名誉教授	認知症の専門家(精神科領域)からの委員
沖野 惣一	おきの内科医院 院長 河北認知症を地域で考える会 代表	かかりつけ医の立場からの委員
矢島 ゆき子	NHK 解説委員室 解説委員	国民一般の立場からの委員

※ 委員長

2. 令和元年度の評価結果に基づく改善

令和元年12月に書面により開催した、アドバイザリーボードによる外部評価(【資料18】73～76ページ)、アドバイザリーボード評価表に示すように、全員から「良い」という評価とご意見をいただいた。それに対し、以下のように対応し、事業活動の改善を図った。

1) 教育コースの新規履修者が減少傾向にある。全国へ向けた広報の方法について検討が必要[中島委員、天野委員、沖野委員]

令和2年度当初には、全国の国公立大学の医学部、歯学部、北陸三県の脳神経内科、精神科、脳神経外科のある病院、及び日本認知症学会認定教育施設等へ「教育コース履修者募集要項」、「履修案内」、「地域認知症専門医師研修(インテンシブ)コースのご案内」、「認知症メディカルスタッフ e-learning 講座のご案内」を送付した。また、大学院入学志望者を対象とした「進学説明会」や大学院入学後のオリエンテーションでも「認プロ」の教育コースについての広報活動を継続して行っている。

2) 履修修了者のその後の臨床現場での活動状況を把握し、プログラムに反映してはどうか[中島委員]

これまで教育コース履修者及び修了者へアンケートを行っており、認プロ教育コースで受講した内容は修了後の活動に“役立っている”との回答が一番多く、今後の継続を望むとの意見も見られた。教育コース履修者及び修了者へのアンケートは引き続き実施し、意見を募る予定である。

3) 履修者数充足の点から教育コースの見直しが必要[天野委員]

令和元年度の認プロ運営協議会・事業推進委員会において、各教育コースの募集人員の見直しを行い、全コース累計募集定員を23名から16名に削減した。

4) 事業縮小後も質の高い教材の提供を継続して欲しい

〔天野委員〕

平成29年11月に出版した「認知症診療実践ハンドブック」の改訂を行い、第2版を今年度中に出版予定である。平成30年度のアドバイザリーボードの評価結果を反映し、「認知症の嚥下障害と嚥下リハビリテーション」の記事をはじめ複数項目を追加する予定である。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行拡大後もWeb会議システムを利用し、オンラインでデメンシアカンファレンスの開催を継続して行った。

5) 文科省の事後評価で、外部評価委員の選定に留意するようにと記載されているが、その課題についてわかる範囲で教えてほしい〔天野委員〕

課題解決型高度医療人材プログラム（平成26年度選定）の事業評価結果では、プログラムのさらなる向上に努めるため、『外部評価の適切な頻度での実施、有益な示唆を得ることができる外部委員の選定に留意いただきたい』と記載されていた。これは、評価者から今後も各事業に対し適切な意見、提言が示され事業の推進に寄与するよう留意していただきたいとの期待を込めた要望を示したものであり、「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」においては、今後も適切な外部評価体制を維持し、事業を推進する。

6) 近年推奨される Advanced Care Planning の考え方を e-learning 講義や講演会で取り上げてはどうか〔沖野委員〕

次回、e-learning 講義の改訂やWebセミナーの機会に「Advanced Care Planning」について取り上げることを検討したい。

7) e-learning 講義の改訂があるのであれば、その部分がわかるようにしてはどうか〔矢島委員〕

次回、e-learning 講義の改訂の際に、改訂箇所が分かるような記載を検討したい。

8) デメンシアカンファレンスの内容についてのまとめなどが認プロHPに掲載されてもいいのではないかと〔矢島委員〕

現在認プロHPの『デメンシアカンファレンス』の項目にて、各デメンシアカンファレンスの報告要旨を公開している。<<http://ninpro.jp/conference/>>

3. 令和3年度の評価結果とアドバイザリーボードにおける審議

令和2年度の活動に関して令和2年12月にアドバイザリーボード委員から評価表を提出していただいた。評価の結果を13～16ページに示す。この外部評価及び令和2年度第1回運営協議会（【資料7】27～28ページ）における意見を踏まえて、令和2年度第1回事業推進委員会において令和3年度の事業計画の審議を行い、令和3年度の事業計画策定に反映させた。

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザーボード評価表

評価日 2020年 12月 24日

御所属 国立病院機構松江医療センター

氏名 中島 健二

総合評価
<p><input checked="" type="checkbox"/> 良い</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある</p> <p><input type="checkbox"/> その他 []</p>
評価できる点
<ol style="list-style-type: none">1. 複数大学・施設が連携して進めている取り組みである2. E-learning 講座が整備されている3. 認知症診療実践ハンドブック（第2版）も出版されている4. カンファレンスやセミナーも開催されている
改善を期待する点
<ol style="list-style-type: none">1. 履修開始者数の減少がみられる2. 折角の魅力ある養成プランであり、一層の発展を期待したい3. 昨年度も申し上げたと思うが、履修修了者の実地での活動状況も知りたい。履修修了者の実地での活躍や本講座への評価・要望・意見も収集してはどうか。それらをプログラムに反映することにより、一層魅力あるプログラムになって、履修者の増加が期待できるのではないか

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザーボード評価表

評価日 2020年 12月 25日

御所属 岡谷市民病院

氏名 天野 直二

総合評価
<p><input checked="" type="checkbox"/> 良い</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>[]</p>
評価できる点
<p>1) コロナ禍にあって事業を積極的に進めている点。</p> <p>2) 令和2年度も6名の新規研修者がいる点。</p> <p>3) E-learning 研修に多くの職種が参加し、とくに看護師が数多く受講している点。</p> <p>4) 改めて評価する点ですが、認知症の講義のシラバス、e-learning の内容は充実しており、今後、全国の模範になる点。</p>
改善を期待する点
<p>1) 本科コースに修了者が多く出てもいい時期と思われませんが、今のところ2名です。大学院としての評価はおそらく本科コースの修了者の今後の活躍と思います。インテンシブコースは手ごろな研修と思いますが、その人たちが本科コースに入るルートはあるのでしょうか。</p> <p>2) 金沢大学のスーパーコースにはとても興味があります。改善を期待する点ではないのですが、2名の学生がどのように研修を進めているかにとても興味があります。</p> <p>3) ますますのご発展を期待します。</p>

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザーボード評価表

評価日 2020年 12月 22日

御所属 河北認知症を考える会・おきの内科医院

氏名 沖野 惣一

総合評価
<p><input checked="" type="checkbox"/> 良い</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある</p> <p><input type="checkbox"/> その他 []</p>
評価できる点
<p>1. 令和2年も新規履修者が一定数あった。</p> <p>2. メディカルスタッフ e-learning 受講者数がさらに多数増加しており、2100名を超えた。広報活動の成果と考えられる。</p> <p>3. 新型コロナウイルス感染が蔓延するなかでも、カンファレンスやセミナーをほぼ予定どおり遂行され、テレビ会議システムを利用した会議も多施設参加で行えている。</p>
改善を期待する点
<p>1. 新規履修者はあったがスペシャルコースの履修者がなく、難しい部分もあるか考えられるが、専攻の呼びかけや推薦等の働きかけを考慮していただきたい。</p> <p>2. 履修者へのアンケートはされているが、履修者や e-learning 受講者が本プログラムで学んだことをどのように現場で活かしているか、履修内容への評価や感想も含めて総括するものがあるといいと考えます。</p>

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザーボード評価表

評価日 2020年12月25日

御所属 NHK解説委員室

氏名 矢島 ゆき子

総合評価
<p><input checked="" type="checkbox"/> 良い</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>[]</p>
評価できる点
<p>●コロナ禍で皆様、大変な年だったと思います。このような状況でも、例年と同じような活動を継続できたのは、日頃からのカンファレンス・セミナーなどのシステムが構築されていたということで、本当に大きかったと思います。</p>
改善を期待する点
<p>●新型コロナウイルスの流行の影響で、高齢者の生活も変わり、運動量・活動量・人との会話が減っているかと思います。健康長寿社会を実現するためのプログラムとして、これまでの市民講座などは今後も難しいと思われるので、認知症の人や家族、また予備群的な方たちへの支援につながる情報発信もお願いできたらと思いました。</p>

IV. 参 考 资 料

IV. 参考資料

- 資料 1 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ(平成26年11月1日)
- 資料 2 事業推進委員会委員名簿(令和2年4月1日現在)
- 資料 3 教務委員会委員名簿(令和2年4月1日現在)
- 資料 4 運営協議会委員名簿(令和2年6月25日現在)
- 資料 5 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定(平成31年4月1日)
- 資料 6 令和2年度 第1回教務委員会(書面付議)議事概要
- 資料 7 令和2年度第1回運営協議会議事概要(令和3年2月1日)
- 資料 8 令和3年度 メディカルスタッフ e-learning 講座のご案内リーフレット
- 資料 9 認知症プロフェッショナル科目 講義シラバス
- 資料 10 認知症診療実践ハンドブック 第1版(平成29年11月)
- 資料 11 デメンシアカンファレンス(DC)の運営手順(平成30年3月14日)
- 資料 12 令和2年度 デメンシアカンファレンス及びデメンシアセミナー
(令和2年5月26日~令和3年3月10日)
- 資料 13 教育コース履修者アンケート集計結果
- 資料 14 令和2年度第1回事業推進委員会議事概要(令和3年2月1日)
- 資料 15 令和3年度教育コース履修者募集要項
- 資料 16 令和3年度履修案内パンフレット
- 資料 17 令和3年度 地域認知症専門医師研修(インテンシブ)コースのご案内リーフレット
- 資料 18 令和元年度 アドバイザリーボードによる外部評価

【資料1】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ

(趣旨)

第1条 この申合せは、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン共同事業協定書第4条の規定に基づき、金沢大学、富山大学、福井大学及び金沢医科大学（以下、「構成大学」という。）において、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（以下「北陸認プロ」という。）の運営組織に関し、必要な事項を定める。

(北陸認プロ事業推進委員会)

第2条 構成大学間で北陸認プロの事業を運営するため、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業推進委員会（以下「事業推進委員会」という。）を置く。

2 事業推進委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 北陸認プロの基本方針及び実施に関する事項
- (2) 北陸認プロの予算及び決算に関する事項
- (3) 北陸認プロの外部評価に関する事項
- (4) その他北陸認プロの運営に関する必要な事項

3 事業推進委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 事業推進責任者（金沢大学医薬保健学域長）
- (2) プロジェクトリーダー
- (3) 金沢大学各関連講座が選出する責任者
- (4) 富山大学各関連講座が選出する責任者
- (5) 福井大学各関連講座が選出する責任者
- (6) 金沢医科大学各関連講座が選出する責任者
- (7) その他事業推進委員会が必要と認めた者

4 事業推進委員会に委員長を置き、プロジェクトリーダーをもって充てる。

5 事業推進委員会は、委員（海外渡航者及び休職者を除く。）の過半数が出欠しなければ、会議を開き、議決することができない。

6 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

7 事業推進委員会は、必要あると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(北陸認プロ教務委員会)

第3条 事業推進委員会の下に、構成大学間で北陸認プロの教育コースを実施するため、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン教務委員会（以下「教務委員会」という。）を置く。

- 2 教務委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - (1) 教育コースの開発・編成並びに募集・登録に係る企画及び立案，調整に関する事項
 - (2) 教育コースの修了認定に関する事項
 - (3) 市民公開講座及びシンポジウムの企画及び実施に関する事項
 - (4) eラーニングの企画及び実施に関する事項
 - (5) FDの企画及び実施に関する事項
 - (6) 4大学合同症例カンファレンスの企画及び実施に関する事項
 - (7) 広報（ホームページを含む）に関する事項
 - (8) その他北陸認プロの教育コースの実施に関する必要な事項
- 3 教務委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) プロジェクトリーダー
 - (2) 金沢大学各関連講座が選出する教務担当者
 - (3) 富山大学各関連講座が選出する教務担当者
 - (4) 福井大学各関連講座が選出する教務担当者
 - (5) 金沢医科大学各関連講座が選出する教務担当者
 - (6) 各構成大学が推薦する関連地域医療機関からの委員
 - (7) その他教務委員会が必要と認めた者
- 4 教務委員会に委員長を置き、プロジェクトリーダーをもって充てる。
- 5 教務委員会は、委員（海外渡航者及び休職者を除く。）の過半数が出欠しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 6 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
- 7 教務委員会は、必要あると認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

（北陸認プロ運営協議会）

第5条 北陸認プロの事業を実施するにあたり関係団体からの意見を求めるため、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。

- 2 運営協議会は事業推進委員会に指導，助言等を行うことができる。
- 3 運営協議会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。
 - (1) 事業推進代表者（金沢大学長）
 - (2) 第2条第3項第1号から第6号までに規定する者
 - (3) 各大学が推薦する関連地域医療機関からの委員
 - (4) 石川県医師会から推薦された委員
 - (5) 富山県医師会から推薦された委員

- (6) 福井県医師会から推薦された委員
 - (7) 石川県健康福祉部から推薦された委員
 - (8) 富山県厚生部から推薦された委員
 - (9) 福井県健康福祉部から推薦された委員
 - (10) その他運営協議会が必要と認めた者
- 4 運営協議会に委員長を置き、プロジェクトリーダーをもって充てる。

(北陸認プロアドバイザーボード)

- 第3条 北陸認プロの事業に対する外部評価を行うため、北陸認知症プロフェッショナル医養成プランアドバイザーボード（以下「アドバイザーボード」という。）を置く。
- 2 アドバイザーボードは、外部の委員（認知症の専門家の立場、地域医療連携の立場、国民一般の立場等）若干名をもって組織する。
 - 3 アドバイザーボードに委員長を置き、委員の互選をもって充てる。
 - 4 アドバイザーボードは、原則として年1回北陸認プロの成果報告に基づき評価を行い、外部評価結果を作成する。
 - 5 アドバイザーボードの委員は事業推進責任者である金沢大学医薬保健学域長が委嘱する。

(北陸認プロ運営事務局)

- 第6条 金沢大学に北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営事務局（以下、「事務局」という。）を置く。
- 2 事務局は、北陸認プロの事業を行うために、構成大学間の調整を行う。
 - 3 事務局は、金沢大学医薬保健系事務部学生課が中心となり、関係大学及び金沢大学医薬保健系事務部関係各課が協力するものとする。

(雑則)

- 第7条 この申合せに定めるもののほか、北陸認プロの運営に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則

この申合せは、平成26年11月1日に施行する。

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
事業推進委員会委員名簿

令和2年4月1日 現在

	氏名	所属等
1	中村 裕之	金沢大学医薬保健学域長（事業推進責任者）
2	山田 正仁	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学 教授 （プロジェクトリーダー）
3	菊知 充	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科精神行動科学 教授
4	鈴木 道雄	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学 教授
5	中辻 裕司	富山大学附属病院脳神経内科 教授
6	小坂 浩隆	福井大学医学部病態制御医学精神医学 教授
7	濱野 忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学（2） 准教授
8	大黒 正志	金沢医科大学医学部高齢医学 教授
9	川崎 康弘	金沢医科大学医学部精神神経科学 教授
10	松井 真	金沢医科大学医学部神経内科学 教授
11	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター センター長

【資料3】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
教務委員会委員名簿

令和2年4月1日 現在

	氏名	所属等
1	山田 正仁	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学 教授
2	濱口 毅	金沢大学附属病院脳神経内科 講師
3	坂井 健二	金沢大学附属病院脳神経内科 助教
4	篠原 もえ子	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科認知症先制医学 特任准教授
5	野崎 一朗	金沢大学附属病院脳神経内科 助教
6	小松 潤史	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科認知症先制医学 特任助教
7	進藤 桂子	金沢大学医薬保健研究域医学系 特任助教
8	橋本 隆紀	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科精神行動科学 准教授
9	金田 礼三	金沢大学附属病院神経科精神科 助教
10	高橋 努	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学 准教授
11	道具 伸浩	富山大学附属病院脳神経内科 助教
12	濱野 忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学（2） 准教授
13	山村 修	福井大学医学部地域医療推進講座 講師
14	井川 正道	福井大学医学部地域高度医療推進講座 講師
15	水野 智之	福井大学医学部附属病院神経科精神科 講師
16	上野 幹二	福井大学医学部附属病院神経科精神科 講師
17	武藤 悠平	福井大学医学部病態制御医学精神医学 助教
18	入谷 敦	金沢医科大学高齢医学 講師
19	上原 隆	金沢医科大学精神神経科学 准教授
20	長山 成美	金沢医科大学神経内科学 准教授
21	駒井 清暢	国立病院機構医王病院 院長
22	石田 千穂	国立病院機構医王病院 臨床研究部 部長
23	北村 立	石川県立高松病院 院長
24	島崎 正夫	医療法人社団和敬会谷野呉山病院 診療部長
25	葛野 洋一	医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院 名誉院長
26	細川 宗仁	国立病院機構北陸病院 医長
27	市川 俊介	国立病院機構北陸病院 部長
28	池田 真由美	国立病院機構北陸病院 医長
29	村田 憲治	福井県立すこやかシルバー病院 院長

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)
運営協議会委員名簿

令和2年6月25日 現在

	氏名	所属等
1	山崎 光悦	金沢大学長（事業推進代表者）
2	中村 裕之	金沢大学医薬保健学域長（事業推進責任者）
3	山田 正仁	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学 教授 (プロジェクトリーダー)
4	菊知 充	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科精神行動科学 教授
5	鈴木 道雄	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学 教授
6	中辻 裕司	富山大学附属病院脳神経内科 教授
7	小坂 浩隆	福井大学医学部病態制御医学精神医学 教授
8	濱野 忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学(2) 准教授
9	大黒 正志	金沢医科大学医学部高齢医学 教授
10	川崎 康弘	金沢医科大学医学部精神神経科学 教授
11	松井 真	金沢医科大学医学部神経内科学 教授
12	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター センター長
13	駒井 清暢	国立病院機構医王病院 院長
14	北村 立	石川県立高松病院 院長
15	島崎 正夫	医療法人社団和敬会谷野呉山病院 診療部長
16	葛野 洋一	医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院 名誉院長
17	坂本 宏	国立病院機構北陸病院 院長
18	村田 憲治	福井県立すこやかシルバー病院 院長
19	菊地 修一	石川県健康福祉部 次長
20	木内 哲平	富山県厚生部 理事
21	土屋 秀樹	福井県健康福祉部 副部長
22	青木 達之	公益社団法人石川県医師会 理事
23	松岡 理	公益社団法人富山県医師会 理事
24	伊部 晃裕	一般社団法人福井県医師会 理事

【資料5】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定書

国立大学法人金沢大学（以下「甲」という。）と国立大学法人富山大学（以下「乙」という。）と国立大学法人福井大学（以下「丙」という。）及び金沢医科大学（以下「丁」という。）は、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業（以下「本事業」という。）を共同して実施するため次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 本事業は、甲、乙、丙及び丁が認知症診療に特化した教育プログラムを共同して実施することにより、北陸地域におけるハイレベルの認知症専門医師を養成することを目的とする。

（事業内容）

第2条 本事業で実施する教育プログラムとして、甲、乙、丙及び丁において、次の各号に掲げるコースを設置するものとする。

- （1）認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
- （2）地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ研修コース）

2 甲においては、本事業の中核拠点として、前項各号に掲げるコースのほか、次の各号に掲げるコースを設置するものとする。

- （1）認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル研修コース）
- （2）地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル研修コース）
- （3）認知症スーパープロフェッショナル医養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）

（運営組織の設置）

第3条 甲、乙、丙及び丁は、本事業を円滑に実施・運営するため運営組織を設置するものとする。

（協定期間）

第4条 この協定の有効期間は、協定締結の日から令和2年3月31日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の30日前までに甲、乙、丙及び丁のいずれからも改廃の申し出がないときには、更に1年間更新継続するものとし、その後も同様とする。

（協議）

第5条 この協定に定めのない事項又は本協定の内容に疑義が生じたときは、その都度、甲、乙、丙及び丁が協議の上、定めるものとする。

本協定締結の証として、本協定書4通を作成し、甲、乙、丙及び丁がそれぞれ1通を保管するものとする。

平成31年4月1日

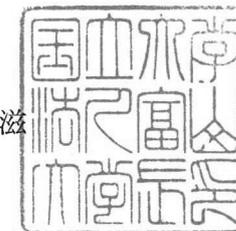
甲 国立大学法人金沢大学長

山崎 光悦



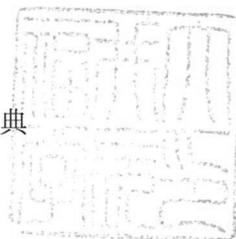
乙 国立大学法人富山大学長

齋藤 滋



丙 国立大学法人福井大学長

上田 孝典



丁 金沢医科大学長

神田 享勉



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
教務委員会委員 各位

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
教務委員会 委員長 山田 正仁

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
令和2年度第1回教務委員会（書面付議）の
議事概要について（通知）

標記の件について、下記のとおりお知らせします。

記

議 題

1. 認プロ教育コース認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）履修者の修了判定

審議の結果、認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）履修者
1名（福井大学）の修了を承認した。

（教務委員会委員29名中、承認：29名、不承認：0名）

2. 認プロ教育コース地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）履修者の修了判定

審議の結果、地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）履修者
2名（金沢大学）の修了を承認した。

（教務委員会委員29名中、承認：29名、不承認：0名）

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
令和2年度 第1回運営協議会議事概要

日 時：令和3年2月1日（月）18：00～18：40
開催方法：個人のPCでWeb会議システム（WebEX）を使用

<運営協議会委員>

【出席】：山崎 光悦（金沢大学長、認プロ 事業推進代表者）、中村 裕之（金沢大学医薬保健学域長、認プロ 事業推進責任者）、山田 正仁（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学（脳神経内科学）教授、認プロ プロジェクトリーダー）、宮岸 良彰（金沢大学附属病院神経科精神科 助教、菊知 充 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科精神行動科学 教授：代理）、鈴木 道雄（富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学 教授）、中辻 裕司（富山大学附属病院脳神経内科 教授）、小坂 浩隆（福井大学医学部病態制御医学精神医学 教授）、濱野 忠則（福井大学医学部病態制御医学内科学（2）准教授）、川崎 康弘（金沢医科大学精神神経科学 教授）、松井 真（金沢医科大学神経内科学 教授）、大黒 正志（金沢医科大学高齢医学 教授）、駒井 清暢（国立病院機構医王病院 院長）、北村 立（石川県立高松病院 院長）、島崎 正夫（医療法人社団和敬会谷野呉山病院 診療部長）、坂本 宏（国立病院機構北陸病院 院長）、村田 憲治（福井県立すこやかシルバー病院 院長）、赤塚 みちる（福井県健康福祉部長寿福祉課、福井県健康福祉部土屋 秀樹副部長：代理）、松岡 理（公益社団法人富山県医師会 理事）、
【欠席】：森本 茂人（金沢医科大学病院認知症センター センター長）、葛野 洋一（医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院 名誉院長）、菊地 修一（石川県健康福祉部 次長）、木内 哲平（富山県厚生部 理事）、青木 達之（公益社団法人石川県医師会 理事）、伊部 晃裕（一般社団法人福井県医師会 理事）

<事務局>

進藤 桂子（金沢大学医薬保健研究域医学系 特任助教）、村田 靖（金沢大学医薬保健系 事務部長）、上谷 順彦（金沢大学医薬保健系事務部 学生課長）、尾上 早知子（北陸認プロ運営事務局）、加藤 美和子（北陸認プロ運営事務局）、高橋 華代子（富山大学医薬系事務部医薬系学務課）、武藤 香子（福井大学総務部松岡キャンパス運営管理課 総務担当主査）、石野 道香（金沢医科大学学事部教学課 大学院医学研究科担当）

1. 運営協議会委員の出席確認と紹介
事務局から開会に先立ち、出席委員の確認と紹介があった。
2. 開会の挨拶
山田正仁委員長から開会の挨拶があった。
3. 挨拶
山崎光悦委員（事業推進代表者）から挨拶があった。
4. 資料の確認
事務局から議事に先立ち、配付資料の確認があった。
5. 議事
 - (1) 令和2年度事業実施報告
山田正仁委員長から、スライド及び資料1に基づき、①事業推進計画の策定及び推進、②教務関係の活動、③「課題解決型高度医療人材養成推進委員会」による事後評価と評価結果、④令和元年度アドバイザーボードの評価結果及び令和元年

度運営協議会での意見に対する対応について、それぞれ説明があった。

(2) アドバイザリーボードによる令和2年度の外部評価の紹介

山田正仁委員長から、資料2に基づき、各アドバイザリーボード委員による評価結果における主な意見等について、報告があった。

(3) 令和3年度事業計画（案）について

山田正仁委員長から、資料3に基づき、次年度も新規事業が獲得できなければ、今年度同様に各大学の必要最小限の活動を自己資金により事業を継続する旨と、会議及びデメンシアカンファレンス等の開催形式をテレビ会議システムから Web 会議システムへ変更し、Web 上でのセミナーを開催していきたい旨の説明があった。

(4) その他

山田正仁委員長が令和3年度3月末で定年により金沢大学を退任する旨と、退任後は後任教授が決まるまで、実務を円滑に行うため、濱口毅准教授が委員長代理を務める旨説明があった。

各委員にその他意見等を求めたところ、以下のとおり質疑応答があった。

【北村立 委員】

コロナ禍で病院ごとや地区により診療やケアの対応が異なり苦慮している。感染症と共存する新しい時代に、認知症に携わる者がどうかかわっていくのか考えるべきだと思う。

【山田正仁 委員長】

認知症学会の調査でも、認知症診療も介護もうまくいかず、認知症が悪化するような要因が積み重なっている状況であることが明らかになっている。次年度にこの問題について Web セミナーなどで取り上げさせていただけたらと思う。

【松岡理 委員】

医師会ではかかりつけ医の先生方を対象に、認知症対応力向上研修会を毎年職務でやらなければいけないが、資料が古い、あるいは内容が乏しいなどの意見があり毎年開催に苦慮している。

認プロはたくさんの e-learning 教材等を作っているので、国が進めている認知症対応力向上の資料に寄与していただけると心強いと思う。

【山田正仁 委員長】

有機的に連携して地域の役に立てれば良いと思うので、意見やアイデアなどがあればぜひまた聞かせてほしい。

5. 閉会の挨拶

山田正仁委員長から、出席委員に対し謝辞と閉会の挨拶があった。

以上



認知症メディカルスタッフe-learning講座のご案内

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）は、真の認知症プロフェッショナル医の育成を目指して活動しています。

『認知症メディカルスタッフe-learning講座』は、認知症診療や対策に関わる医師・歯科医師以外のすべての職種の方々（看護師・保健師・リハビリ関係・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・研究者など）を対象とした**無料の講座**です。

この講座は、インターネットを利用した講座のため、お時間があるときに全国どこの地域からでも受講が可能です。講座は、講義ビデオ及び確認テストで構成されています。

裏面のe-learning講義科目一覧表のように40コマの講義科目を用意しています。個人での受講を希望される方をはじめ、施設での教育活動にご利用していただくことも可能です。

受講をご希望の方は、随時受付をしておりますので、北陸認プロ運営事務局 (e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)までお気軽にご連絡ください。

※医師・歯科医師の方は、教育コース（本科コース、インテンシブコース等）を履修していただきます。認知症メディカルスタッフe-learning講座は、医師・歯科医師以外の方を対象としています。

e-learning講座の講義例

<認知症基礎 第1回認知症の概要と疫学/>

担当：金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（脳神経内科学）教授 山田 正仁先生>

認知症の定義、原因疾患、疫学など、認知症についての概要を学ぶ。

[1] ビデオ講義
[1] 確認テスト

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
認知症基礎
認知症の概要と疫学
金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学）
山田 正仁

カンファレンス等にも無料でご参加いただけます！

亜急性に記憶障害が進行した
抗LGI1抗体陽性辺縁系脳炎の1例

2020年9月15日
第64回デメンシアカンファレンス

【デメンシアカンファレンス】
毎月1回Web会議システムを
利用し症例検討を行う

【お問い合わせ】北陸認プロ運営事務局（金沢大学）
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL：076-265-2149 FAX：076-234-4208
e-mail：ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL：http://ninpro.jp/



e-learning講義科目一覧表

科目	回	テーマ	授業担当者名	授業担当者所属
1 認知症基礎	1回	認知症の概要と疫学	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	2回	認知症の病理学	坂井 健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
	3回	認知症の分子遺伝学	瀧口 毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
	4回	認知症の神経化学（神経伝達物質）・神経免疫学	岩佐 和夫	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	5回	認知症の蛋白化学	小野 賢二郎	昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門
	6回	アミロイドーシスの分子機構	内木 宏延	福井大学医学部 分子病理学
2 認知症症候学	1回	認知症の中核症状とBPSD	上原 隆	金沢医科大学 精神神経科学
	2回	老年期の精神障害と認知症	川崎 康弘	金沢医科大学 精神神経科学
	3回	老年期の気分障害と認知症	北村 立	石川県立高松病院 神経内科
	4回	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症	田中 悠二	埼玉県立精神医療センター
	5回	軽度認知障害	池田 篤平	石川県立中央病院 神経内科
	6回	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応	大黒 正志	金沢医科大学 高齢医学
3 診断学 ・ 検査	1回	認知症診療に必要な神経心理検査	東間 正人	医療法人社団青樹会 青和病院
	2回	認知症の画像検査1（CT, MRI, MIBG, DAT imaging）	吉田 光宏	独立行政法人国立病院機構 北陸病院
	3回	認知症の画像検査2（脳血流SPECT, FDG-PET, アミロイドPET）	松成 一朗	埼玉医科大学病院 核医学診療科
	4回	認知症の血液・脳脊髄液検査	篠原 もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
	5回	認知症の神経生理検査－脳波－	東間 正人	医療法人社団青樹会 青和病院
	6回	認知症診断のすすめ方	池田 篤平	石川県立中央病院 神経内科
4 予 防 学 ・ 治療	1回	認知症の治療総論（薬物、ケア、リハビリ、終末期医療をふくむ）	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター
	2回	高齢者の薬物動態	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター
	3回	抗認知症薬	濱野 忠則	福井大学医学部 病態制御医学内科学（2）
	4回	BPSDの治療	橋本 隆紀	金沢大学大学院 精神行動科学
	5回	生活習慣と認知症予防	篠原 もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
5 支 援 ・ 倫 理 ・ 地 域	1回	認知症のケアとリハビリの基本・原則	木戸 幹雄	富山大学附属病院 神経精神科
	2回	認知症ケアの実践	島崎 正夫	医療法人社団和敬会 谷野呉山病院
	3回	認知症リハビリの実践	横川 正美	金沢大学保健学系理学療法科学
	4回	社会環境・資源1（認知症に関わる制度・政策）	北村 立	石川県立 高松病院
	5回	社会環境・資源2（生活支援と地域連携）	北村 立	石川県立 高松病院
	6回	認知症の人への配慮、法・倫理	北村 立	石川県立 高松病院
6 認 知 症 各 論 I	1回	アルツハイマー病	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	2回	レビー小体型認知症	吉田 光宏	独立行政法人国立病院機構 北陸病院
	3回	前頭側頭葉変性症	鈴木 道雄	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
	4回	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症	坂井 健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
	5回	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
7 認 知 症 各 論 II	1回	血管性認知症	高嶋 修太郎	JCHO 高岡ふしき病院
	2回	正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、頭部外傷	富岳 亮	金沢医科大学 氷見市民病院 脳神経内科
	3回	代謝性疾患、炎症性疾患、その他	林 浩嗣	新田塚学園福井医療短期大学 リハビリテーション学科
	4回	プリオン病	瀧口 毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
	5回	認知症と鑑別すべき精神疾患	高橋 努	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
	6回	若年性認知症	濱野 忠則	福井大学医学部 病態制御医学内科学（2）

令和2年度 デメンシアカンファレンス及びデメンシアセミナー 開催実績

回	開催日	担当大学等	症例
第1回セミナー	5/26（火）	金沢大学	認知症予防を考える-エビデンス確立のために
第62回	6/9（火）	富山大学	筋萎縮性側索硬化症に認知症を合併した1例
第2回セミナー	7/21（水）	福井大学	認知症とタウ蛋白
第63回	8/3（月）	金沢医科大学	比較的急激に易怒性、攻撃性を呈し血管性の前頭型認知症が鑑別として疑われた症例
第64回	9/15（火）	金沢大学	亜急性に記憶障害が進行した抗LGI-1抗体陽性辺縁系脳炎の
第65回	10/20（火）	富山大学	アルコール離脱に伴い意識障害を呈し、巧緻運動障害と構音障害が残存した一例
第66回	11/24（火）	福井大学	臨床症状と画像検査で乖離した所見であった認知症の高齢者女性
第67回	12/16（水）	金沢医科大学	治療同意に難渋した一例
第68回	1/26（火）	金沢大学	混合性結合組織病（MCTD）の経過中、末梢神経障害と認知機能障害を認め、MRIで脳梁膨大部が異常信号を呈した1例
第69回	2/9（火）	富山大学	亜急性に進行した認知症で、MRIにて両側海馬に異常信号を呈した一例
第70回	3/10（水）	福井大学	原発性進行性失語の1例（1つの目安としての分類）

講義シラバス

1. 認知症基礎

認知症の基礎を理解するために、認知症の概念、疫学、神経病理学、分子遺伝学、神経化学、神経免疫学、アミロイド-シス分子機構を概説する。

【科目担当教員：金沢大学大学院脳老化・神経病態学 山田正仁】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症の概要と疫学	山田正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
2	認知症の病理学	坂井健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
3	認知症の分子遺伝学	濱口毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
4	認知症の神経化学（神経伝達物質）・神経免疫学	岩佐和夫	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
5	認知症の蛋白化学	小野賢二郎	昭和大学医学部 内科学講座 脳神経内科学部門
6	アミロイド-シスの分子機構	内木宏延	福井大学医学部 分子病理学
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回） orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第1回	認知症の概要と疫学
講師	山田正仁
所属	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
講義内容	認知症の定義、原因疾患、疫学など、認知症についての概要を学ぶ。
第2回	認知症の病理学
講師	坂井健二
所属	金沢大学附属病院 脳神経内科
講義内容	認知症を生じる疾患は多岐に渡り、神経変性疾患、血管障害や炎症性疾患などが挙げられる。確定診断には病理学的な検索が必要な場合が多い。病理学的な検索には肉眼的な観察、顕微鏡を用いた観察、特殊染色や免疫染色を利用した特徴的構造物や蓄積タンパク質の検索などがある。認知症を生じる疾患の病理について学ぶ。
第3回	認知症の分子遺伝学
講師	濱口毅
所属	金沢大学附属病院 脳神経内科
講義内容	認知症発症に関連する遺伝子多型や認知症発症の原因となる遺伝子変異について学ぶ。

第4回	認知症の神経化学（神経伝達物質）・神経免疫学
講師	岩佐和夫
所属	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
講義内容	中枢神経伝達物質の種類と機能について理解し、認知症と神経伝達物質との関連について学ぶ。また、神経細胞の変性過程における神経免疫の関与について理解する。

第5回	認知症の蛋白化学
講師	小野賢二郎
所属	昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門
講義内容	アルツハイマー病やレビー小体型認知症等の病態においてアミロイドβ蛋白やαシヌクレイン蛋白といった蛋白の凝集が深く関わっているとされている。本講義で蛋白凝集と病態に関して概説する。

第6回	アミロイドーシスの分子機構
講師	内木宏延
所属	福井大学医学部 分子病理学
講義内容	初めにアミロイドーシスの概念、病理形態学、分類を概説した後、アミロイド線維形成を説明する重合核依存性重合モデルを解説し、このモデルを検証する実験系の概要を述べる。次いでアミロイド線維形成における生体分子の役割に関し、長期血液透析患者に発症するβ2-ミクログロブリンアミロイドーシス、およびアルツハイマー病に認められる脳血管アミロイド症をモデル疾患として解説する。

2.認知症症候学

ライフサイクルにおける老年期の特性をふまえて老年期の精神障害の発症機序を解説する。また老年期精神障害の特徴を述べ、そのことが障害の診断や治療において重要な手掛かりを提供しうることを解説する。

【科目担当教員：金沢医科大学精神神経科学 川崎康弘】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症の中核症状とBPSD	上原隆	金沢医科大学 精神神経科学
2	老年期の精神障害と認知症	川崎康弘	金沢医科大学 精神神経科学
3	老年期の気分障害と認知症	北村立	石川県立高松病院
4	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症	田中悠二	埼玉県立精神医療センター
5	軽度認知障害	池田篤平	石川県立中央病院 神経内科
6	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応	大黒正志	金沢医科大学 高齢医学
7	(認知症関連)学会orセミナー参加(1回) orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト(必須)	単位認定教員	

※(認知症関連)学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

ライフサイクルにおける老年期の特性をふまえて老年期の精神障害の発症機序を解説する。また老年期精神障害の特徴を述べ、そのことが障害の診断や治療において重要な手掛かりを提供しうることを解説する。

第1回	認知症の中核症状とBPSD
講師	上原隆
所属	金沢医科大学 精神神経科学
講義内容	認知症の中核症状（記憶障害、失語、失行、失認、実行機能障害などの認知症状）と認知症に伴う行動・心理症状（BPSD）について、その基本を学ぶ。
第2回	老年期の精神障害と認知症
講師	川崎康弘
所属	金沢医科大学 精神神経科学
講義内容	老年期は安定した精神状態にあるとされるが、他の年齢層に比較して精神障害の患者数が多いのも事実である。ライフサイクルにおける老年期の特性をふまえて老年期の精神障害の発症機序を解説する。また老年期精神障害の特徴を述べ、そのことが障害の診断や治療において重要な手掛かりを提供しうることを解説する。
第3回	老年期の気分障害と認知症
講師	北村立
所属	石川県立高松病院
講義内容	臨床でしばしば経験する、うつ病性仮性認知症、うつ病と認知症の中間的な状態、拒絶や介護抵抗として現れる抑うつ、アパシーと抑うつの見分け方、認知症に伴う躁状態について症例を示しながら解説する。
第4回	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症
講師	田中悠二
所属	埼玉県立精神医療センター
講義内容	高齢者では、生理身体機能の低下、身体疾患に伴う心身機能の病的な減衰、離別や死別、社会的孤立、経済状況の変化といった多種多様な状況の変化が起こる。それに伴い不安症状や睡眠障害が多く見られる。高齢者の不安障害や睡眠障害について、他疾患との鑑別も含めて学ぶ。高齢者では慢性的、潜在的に脳機能が低下しておりせん妄が生じやすい。せん妄の準備因子、促進因子、直接因子について、アセスメントと対応方法について学ぶ。
第5回	軽度認知障害
講師	池田篤平
所属	石川県立中央病院 神経内科
講義内容	軽度認知障害の概念を理解し、軽度認知障害の分類、その背景疾患について画像や生物学的マーカーを含めた診断、治療法の選択、認知症への移行について学ぶ。
第6回	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応
講師	大黒正志
所属	金沢医科大学 高齢医学
講義内容	認知症高齢者に合併しやすい身体症状や周辺症状とその対応について学ぶ。

3.認知症検査・診断学

認知症の早期診断と進行段階の評価には、生物学的指標を用いて、認知機能障害とその基盤にある脳器質病変および機能異常を包括的に理解する必要がある。本授業では、神経心理学検査、神経画像、脳波、血液および脳脊髄液検査の特徴的所見について学び、各検査を有効に実施するための診断の手順を習得する。

【科目担当教員：福井大学精神医学 小坂浩隆】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症診療に必要な神経心理検査	東間正人	医療法人社団 青樹会 青和病院
2	認知症の画像検査1 (CT, MRI, MIBG, DAT imaging)	吉田光宏	独立行政法人 国立病院機構 北陸病院
3	認知症の画像検査2 (脳血流SPECT, FDG-PET, アミロイドPET)	松成一朗	埼玉医科大学病院 核医学診療科
4	認知症の血液・脳脊髄液検査	篠原もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
5	認知症の神経生理検査－脳波－	東間正人	医療法人社団 青樹会 青和病院
6	認知症診断のすすめ方	池田篤平	石川県立中央病院 神経内科
7	(認知症関連)学会orセミナー参加(1回) orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト(必須)	単位認定教員	

※(認知症関連)学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第1回	認知症診療に必要な神経心理検査
講師	東間正人
所属	医療法人社団 青樹会 青和病院
講義内容	認知機能低下を的確に評価するため、記憶、注意、言語、知覚、運動(行為)および実行機能など多領域の認知機能検査を体系的に実施する必要がある。各領域の代表的検査の実施法と評価・局在診断について学ぶ。簡易検査Mini-mental State Examination(MMSE)と改訂版長谷川式認知機能検査(HDS-R)の相違点を理解し、臨床現場での検査の選択と効率的な実施に関してその実践を学ぶ。
第2回	認知症の画像検査1(CT, MRI, MIBG, DAT imaging)
講師	吉田光宏
所属	独立行政法人 国立病院機構 北陸病院
講義内容	認知症疾患におけるそれぞれの神経画像における特徴を学び、認知症の鑑別診断に役立てることができるようになる。
第3回	認知症の画像検査2(脳血流SPECT, FDG-PET, アミロイドPET)
講師	松成一朗
所属	埼玉医科大学病院 核医学診療科
講義内容	正常加齢やアルツハイマー病に代表される認知症に伴う変化と画像診断の関係について、脳の神経活動生を見る検査であるFDG PETや脳血流SPECT、脳のアミロイド蛋白蓄積を見る検査であるアミロイドPETを中心に、最新の知見も取り入れ概説する。

第4回	認知症の血液・脳脊髄液検査
講師	篠原もえ子
所属	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
講義内容	内科疾患による認知症の鑑別に必要な血液検査や、脳脊髄液検査、およびアルツハイマー病等の診断に役立つ、脳脊髄液マーカー、血液マーカーについて学ぶ。

第5回	認知症の神経生理検査－脳波－
講師	東間正人
所属	医療法人社団 青樹会 青和病院
講義内容	脳波は脳機能を反映した電気活動を直接計測する唯一の検査法である。脳波所見を理解する基本的知識について学ぶ。高齢者および認知症患者に関して、①認知症全般でみられる局在性あるいは全般性の基礎律動の徐波と認知機能低下の関連、②正常加齢でみられる非特異的な境界脳波所見、③代表的認知症疾患の特徴的所見、④認知症との鑑別を要するせん妄とてんかんの脳波所見について学ぶ。

第6回	認知症診断のすすめ方
講師	池田篤平
所属	石川県立中央病院 神経内科
講義内容	医学の進歩により、たとえ認知症になっても早期に発見して適切な対処をすれば、症状の進行を抑えたり改善したりできる可能性が高まっている。本講義では早期診断に役立つ認知症診断の進め方を解説する。

4.認知症治療・予防学

各種認知症の治療法について学習する。高認知症薬、周辺症状に対する治療薬、神経症状に対する治療薬、糖尿病、高血圧などの生活習慣病の予防・治療と認知症に対する関与、リハビリ、ケアの基本技術について学習する。

【科目担当教員：金沢医科大学病院認知症センター 森本茂人】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症の治療総論 (薬物、ケア、リハビリ、終末期医療をふくむ)	森本茂人	金沢医科大学病院 認知症センター
2	高齢者の薬物動態	森本茂人	金沢医科大学病院 認知症センター
3	抗認知症薬	濱野忠則	福井大学医学部 病態制御医学内科学 (2)
4	BPSDの治療	橋本隆紀	金沢大学大学院 精神行動科学
5	生活習慣と認知症予防	篠原もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
6	(認知症関連) 学会orセミナー参加 (1回) orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
7	(認知症関連) 学会orセミナー参加 (1回) orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト (必須)	単位認定教員	

※ (認知症関連) 学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第1回	認知症の治療総論（薬物，ケア，リハビリ，終末期医療をふくむ）
講師	森本茂人
所属	金沢医科大学病院 認知症センター
講義内容	認知症の予防・治療・ケアにつき概説する。認知症発症の予防については、生活習慣病が認知症発症の危険因子となることから、中年期からの生活習慣病の予防・治療の重要性、身体活動、食習慣の改善、趣味や娯楽の重要性につき学習する。認知症の治療については各種認知症および周辺症状、神経症状への高認知症薬を含む治療法につき学習する。さらに、多職種連携による本人および家族への支援、ケア、リハビリなどにつき学習する。
第2回	高齢者の薬物動態
講師	森本茂人
所属	金沢医科大学病院 認知症センター
講義内容	高齢者では薬物副作用が多発する。また、高齢者では臓器予備能や恒常性維持機能の低下がみられ、複数の合併症治療を考慮した薬物投与設計が必要となる。本項では薬物動態への加齢の影響、認知症に使用される代表的薬物の副作用の発現機序、認知機能に影響する抗コリン薬、譫妄の原因となりやすい薬物の種類と作用機序などにつき学習する。さらに高齢者、特に認知症例における服薬のアドヒアランスを上げる工夫につき学習する。
第3回	抗認知症薬
講師	濱野忠則
所属	福井大学医学部 病態制御医学内科学（2）
講義内容	アルツハイマー病の認知機能障害には、コリンエステラーゼ阻害薬（ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミン）、およびNMDA受容体拮抗薬メマンチンが有効である。レビー小体型認知症の認知機能障害、BPSDの両者に対しドネペジルが有効である。血管性認知症に対しては二セルゴリンが有効である。前頭側頭葉型認知症の行動異常に対しては、SSRIの使用が推奨されている。これら薬剤を中心に作用機序も含め学習する。
第4回	BPSDの治療
講師	橋本隆紀
所属	金沢大学大学院 精神行動科学
講義内容	認知症では、中核症状である健忘や認知機能の障害の他に、衝動制御の低下、幻覚妄想、気分障害、意欲低下などが認められBehavioral and Psychological Symptoms of Dementia (BPSD)と呼ばれる。BPSDは患者だけでなく、家族や介護者にとって大きな負担を強いるものであり、そのコントロールは認知症治療のもっとも重要な目的である。この授業では、BPSDの発症機序を踏まえたうえで、対応方法について扱う。
第5回	生活習慣と認知症予防
講師	篠原もえ子
所属	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
講義内容	食事・栄養、運動などの生活習慣に関する、認知症予防研究の現状や、糖尿病、高血圧症など生活習慣病と認知症との関連について学ぶ。

5. 認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理

認知症患者に対しては、生活障害を改善し、地域の中で生活することを支援することが重要である。本授業では、認知症に対する適切なケア、リハビリテーションの基本について学ぶとともに、認知症患者を地域生活の中で支援する制度および実践、認知症診療に関わる法制度や倫理について理解する。

【科目担当教員：富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座 鈴木道雄】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症のケアとリハビリの基本・原則	木戸幹雄	富山大学附属病院 神経精神科
2	認知症ケアの実践	島崎正夫	医療法人社団和敬会 谷野呉山病院
3	認知症リハビリの実践	横川正美	金沢大学 保健学系理学療法科学
4	社会環境・資源1（認知症に関わる制度・政策）	北村立	石川県立 高松病院
5	社会環境・資源2（生活支援と地域連携）	北村立	石川県立 高松病院
6	認知症の人への配慮、法・倫理	北村立	石川県立 高松病院
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）or デメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第1回	認知症のケアとリハビリの基本・原則
講師	木戸幹雄
所属	富山大学附属病院 神経精神科
講義内容	認知症診療では薬物療法に加えて、生活障害の改善を目的としたケアと、生活能力とQOLの向上を目的とした非薬物療法が重要である。ケアの基本はpersonhood(その人らしさ)を維持することを重視したパーソンセンタードケアである。非薬物療法としては、回想法や現実見当識訓練、芸術療法等がある。認知症に対する非薬物療法は、残存機能を向上させることで二次的に認知機能を向上させることが期待される。

第2回	認知症ケアの実践
講師	島崎正夫
所属	医療法人社団和敬会 谷野呉山病院
講義内容	不適切なケアがBPSDの悪化を招きます。 対応の仕方を工夫することで、認知症の方の不安が少なくなり、介護者の負担も軽減します。 認知症ケアの実践について学びます。

第3回	認知症リハビリの実践
講師	横川正美
所属	金沢大学 保健学系理学療法科学
講義内容	認知症に対するリハビリテーションの実践として、1)低下する認知機能に直接働きかける、 2)残存機能を活かす、3)環境設定について学ぶ。

第4回	社会環境・資源1（認知症に関わる制度・政策）
講師	北村立
所属	石川県立 高松病院
講義内容	新オレンジプランの概要を理解し、地域包括支援センターや初期集中支援チーム等の役割を学ぶ。介護保険制度の具体的なサービス内容を理解する。成年後見制度や障害年金制度について学ぶ。

第5回	社会環境・資源2（生活支援と地域連携）
講師	北村立
所属	石川県立 高松病院
講義内容	ICF（国際生活機能分類）の概念を学び、生活機能障害という観点から認知症を理解する。認知症の人の生活支援を行うために必要な多職種チームのあり方や訪問看護の実践について学ぶ。

第6回	認知症の人への配慮、法・倫理
講師	北村立
所属	石川県立 高松病院
講義内容	精神保健福祉法における入院手続きを理解する。身体拘束や経済的被害、虐待、自動車運転など認知症を取り巻く社会的問題について学ぶ。認知症の人の医療同意や意思決定について興味を持つ。

6.認知症各論 I

認知症を起こす疾患のうち、神経変性疾患について解説する。それらにはアルツハイマー病 (AD)、レビー小体型認知症 (DLB)、前頭側頭葉変性症 (FTLD)、進行性核上性麻痺 (PSP)、大脳皮質基底核変性症 (CBD)、嗜銀顆粒性認知症 (AGD)、神経原線維変化型老年期認知症 (SD-NFT)を含む。

【科目担当教員：金沢大学大学院脳老化・神経病態学 山田正仁】

回	テーマ	担当者	所属
1	アルツハイマー病	山田正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
2	レビー小体型認知症	吉田光宏	独立行政法人 国立病院機構 北陸病院
3	前頭側頭葉変性症	鈴木道雄	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
4	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症	坂井健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
5	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症	山田正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
6	(認知症関連)学会orセミナー参加(1回) orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
7	(認知症関連)学会orセミナー参加(1回) orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト(必須)	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第1回	アルツハイマー病
講師	山田正仁
所属	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
講義内容	アルツハイマー病の定義、疫学、原因・危険因子、症候と経過、検査、診断、治療について解説する。さらに、新たらしい治療・予防法の開発についても触れる。

第2回	レビー小体型認知症
講師	吉田光宏
所属	独立行政法人 国立病院機構 北陸病院
講義内容	レビー小体型認知症について、基本的事項、疫学、臨床症状、検査所見、診断基準、治療などについて総合的に学ぶ。

第3回	前頭側頭葉変性症
講師	鈴木道雄
所属	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
講義内容	前頭側頭葉変性症の分類、臨床症状、診断、検査所見、脳画像所見、脳病理所見、治療やケアについて学ぶ。

第4回	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症
講師	坂井健二
所属	金沢大学附属病院 脳神経内科
講義内容	進行性核上性麻痺と大脳皮質基底核変性症は孤発性タウオパチーの代表疾患であり、臨床的にはパーキンソニズムと皮質下性認知症、様々な程度の大脳皮質症状を特徴とする。病理学的には神経細胞およびグリア細胞へのリン酸化タウ蛋白の蓄積が認められる。近年、臨床的には両者を区別できない症例が多数報告され、大脳皮質基底核症候群との概念が定着しつつある。両疾患の臨床および病理を解説する。

第5回	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症
講師	山田正仁
所属	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
講義内容	アルツハイマー病と誤診されやすい嗜銀顆粒性認知症、神経原線維変化型老年期認知症などの高齢発症タウオパチーについて、概念、病理、臨床的特徴、診断のポイント、治療法開発の展望などについて解説する。

7. 認知症各論Ⅱ

本コースでは、認知機能低下を来し、かつ適切な治療によって認知機能の回復が可能な種々の重要な疾患を講義し、日常臨床上、認知症患者の鑑別診断と治療に有用となる知識を提供する。

【科目担当教員：富山大学附属病院神経内科 田中耕太郎】

回	テーマ	担当者	所属
1	血管性認知症	高嶋修太郎	JCHO高岡ふしき病院
2	正常圧水頭症, 慢性硬膜下血腫, 頭部外傷	富岳亮	金沢医科大学 氷見市民病院 脳神経内科/診療科
3	代謝性疾患, 炎症性疾患, その他	林浩嗣	福井医療短期大学 リハビリテーション学科
4	プリオン病	濱口毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
5	認知症と鑑別すべき精神疾患	高橋努	富山大学大学院 医学薬学研究部 神経精神医学講座
6	若年性認知症	濱野忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学 (2)
7	(認知症関連) 学会orセミナー参加(1回) or デメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト(必須)	単位認定教員	

※(認知症関連) 学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第1回	血管性認知症
講師	高嶋修太郎
所属	JCHO高岡ふしき病院
講義内容	認知症患者の約3割を占める血管性認知症の臨床症状や検査所見など臨床的特徴を理解し、診断基準、危険因子、および予防法を含む治療法を学ぶ。また、Strategic single-infarct dementia (特異な単一梗塞による認知症) など、血管性認知症の分類に関する知見も習得する。
第2回	正常圧水頭症, 慢性硬膜下血腫, 頭部外傷
講師	富岳亮
所属	金沢医科大学氷見市民病院 脳神経内科/診療科
講義内容	正常圧水頭症についてはその分類, 診断, 手術効果, アルツハイマー病との関係について学び。慢性硬膜下血腫については発生機序と診断ならびに治療について。外傷性脳障害についてはその病態と分類と症状について学ぶ。
第3回	代謝性疾患, 炎症性疾患, その他
講師	林浩嗣
所属	福井医療短期大学 リハビリテーション学科
講義内容	治療可能な認知症treatable dementiaの多くは、内分泌、代謝、栄養欠乏、中毒、感染、免疫性疾患など様々な内科疾患に起因することが知られている。認知症の10%が可逆性疾患に起因するものであったという報告があり、決して頻度は低くない。これらの治療可能な疾患は見逃すことはできず、鑑別診断は非常に重要である。本講では、治療可能な認知症をきたす代表的疾患の診断、治療法について学ぶ。

第4回	プリオン病
講師	濱口毅
所属	金沢大学附属病院 脳神経内科
講義内容	プリオン病の病型に違いによる臨床症候や検査所見の違いを理解し、それぞれの病型のプリオン病の診断法を学ぶ。また、治療法の現状や介護や社会支援についても学習する。

第5回	認知症と鑑別すべき精神疾患
講師	高橋努
所属	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
講義内容	せん妄などの軽度の意識障害やうつ病などは、認知症と類似の症状を呈するが治療可能であることなどから鑑別が重要である。認知症との鑑別が必要な主な精神疾患について症例なども提示して概説する。

第6回	若年性認知症
講師	濱野忠則
所属	福井大学医学部 病態制御医学内科学（2）
講義内容	若年性認知症は高齢者にみられる認知症と比較して血管性認知症、前頭側頭葉型認知症の割合が高く、アルツハイマー病やレビー小体型認知症の割合が比較的低い。若年性認知症は、就労可能な年代で発症することから、職業に支障が出るため、本人の病識も十分あり、精神的ストレスは大きい。また介護者の負担も大きく、重大な問題となっている。診断、治療法に加え、就労支援、家族の支援を含めた社会的ケアについても学習する。

2017年11月 中外医学社より出版



文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
デメンシアカンファレンス（DC）の運営手順

改正：2018.3.14

認プロ運営事務局

1. DC 主催施設の決定

- ・ 基本的に金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学の順で主催（症例呈示）する。
- ・ 大学以外の認プロ参加地域医療機関が主催を希望する場合は、金沢大学認プロ運営事務局（以下認プロ運営事務局）に申し出る。認プロ運営事務局は5ヶ月目以降の予定に組み入れる。

2. 開催日の決定

- ・ DC 主催施設の事務担当者は、DC 開催日について第1希望と第2希望の日時を認プロ運営事務局へ4ヶ月前月の1日（例：8月開催であれば4月1日）までに申し出る。
- ・ 認プロ運営事務局は、上記の開催希望日時を北信がんプロのキャンサーボード等と重なっていないことを北信がんプロ事務局に確認し、重なっていた場合は再度希望を出してもらう。
- ・ 認プロ運営事務局は、第1希望と第2希望の日時を事業推進委員会委員及び教務委員会委員、各施設事務担当者へ知らせる。事務担当者は、各施設の事業推進委員会委員及び教務委員会委員の都合をまとめ認プロ運営事務局へ連絡をする。
- ・ 認プロ運営事務局は開催日時を決定し、DC 主催施設の事務担当者及び北信がんプロ事務局へ連絡する。

3. 開催案内

- ・ DC 主催施設の事務担当者は、DC 開催案内（チラシ）を作成し、認プロ運営事務局へメールで送る。認プロ運営事務局は内容を確認の上、他施設の事務担当者へ開催日の4週間前までにメールで送る。各施設の事務担当者は、当該施設の事業推進委員会委員及び教務委員会委員、その他に広く周知する。
- ・ 認プロ運営事務局は認プロホームページに開催案内を掲載する。

4. DC の内容

- ・ 時間は 90 分以内とする。症例呈示をベースにし、討論を含む。ミニレクチャー等を加えるなどしてもよい。
- ・ 個人情報保護のため、患者氏名、患者イニシャル、患者 I D 等を出さない。詳細は「臨床神経学」の投稿規程 (<https://www.neurology-jp.org/Journal/toukoukitei/index.html>) に準拠する。

5. 出席及び単位認定

- ・ 医療関係者（学生を含む）は、出席できる。
- ・ 各施設の事務担当者は、受付で出席者に出席受付簿（所定様式）に記入してもらい、併せて教育コース履修者には本人保管用の受講証明を渡す。なお、テレビ会議システム設置施設以外の場所で、Web 会議システムにより DC に出席した教育コース履修者の出席確認は、認プロ運営事務局からメールで送信する DC 出席確認のための設問への回答により行い、設問 3 問中 2 問以上の正答をもって DC の出席を確認する。
- ・ 各施設の事務担当者は、DC の翌日までに記入済の出席受付簿をメールの添付（PDF）で認プロ運営事務局に提出する。認プロ運営事務局は、提出のあった出席受付簿により大学別のリストを作成し、各大学にメールの添付で送る。教育コース履修者が記載した「受講する授業科目」は本人の申し出により後日修正することができる。


 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第1回 デメンシアセミナー

2020年5月26日(火)18:30~19:00

「認知症予防を考える - エビデンス確立のために -」

演者: 金沢大学大学院 脳老化・神経病態学(脳神経内科学) 山田正仁
 担当: 金沢大学
 対象: 認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者 (医療系大学の学生含む)

＜参加方法＞
 個人のパソコンからWeb会議システム (WebEX) を使用

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンスの開催を見合わせ、代わりにデメンシアセミナーをWeb上で開催します。セミナー後にWeb上で質疑をします。

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。
- ・上記以外で参加を希望される方は5月25日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

【お問い合わせ先】
 北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
 TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208 E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL:http://ninpro.jp/


 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第62回 デメンシアカンファレンス(Web)

「筋萎縮性側索硬化症に 認知症を合併した1例」

2020年6月9日(火) 18:30~19:00

演者: 富山大学 脳神経内科 穴田 涼子
 担当: 富山大学
 対象: 認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者 (医療系大学の学生含む)

【参加方法】
 個人のパソコンからWeb会議システム (WebEX) を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンスの開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。
- ・上記以外で参加を希望される方は6月8日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせ下さい。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

【お問い合わせ先】
 北陸認プロ運営事務局
 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
 TEL: 076-265-2149 FAX: 076-234-4208
 E-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp / URL: <http://ninpro.jp/>


 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第2回 デメンシアセミナー

2020年7月21日(火)18:30~19:00

「認知症とタウ蛋白」

演者: 福井大学医学部病態制御医学内科学(2) 濱野忠則
 担当: 福井大学
 対象: 認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者 (医療系大学の学生含む)

【参加方法】
 個人のパソコンからWeb会議システム (WebEX) を使用

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンスの開催を見合わせ、代わりにデメンシアセミナーをWeb上で開催します。セミナー後にWeb上で質疑をします。

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。
- ・上記以外で参加を希望される方は7月20日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

【お問い合わせ先】
 北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
 TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208 E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL:http://ninpro.jp/


 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第63回デメンシアカンファレンス(Web)

比較的急激に易怒性、攻撃性を呈し 血管性の前頭型認知症が鑑別として 疑われた症例

2020年8月3日(月) 18:30~20:00

発表者: 金沢医科大学 高齢医学 五十嵐 裕太
 担当: 金沢医科大学
 対象: 参加施設及びその他の施設の医療関係者 (医療系大学の学生含む)

【参加方法】
 個人のパソコンからWeb会議システム (WebEX) を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンスの開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。

教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。

上記以外で参加を希望される方は7月31日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

【お問い合わせ・参加申し込み先】
 北陸認プロ運営事務局
 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
 TEL:076-265-2149 / FAX:076-234-4208
 E-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp / URL: <http://ninpro.jp/>



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第64回 デメンシアカンファレンス(Web)

2020年9月15日(火)18:30~

「亜急性に記憶障害が進行した抗LGI-1抗体陽性辺縁系脳炎の一例」

発表者:金沢大学附属病院 脳神経内科 柏原 健伸
担当:金沢大学
対象:認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

<参加方法> 個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンス開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。カンファレンス後にWeb上で質疑をします。

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。
- ・上記以外で参加を希望される方は9月14日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:<http://ninpro.jp/>



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)
第65回デメンシアカンファレンス(Web)

アルコール離脱に伴い意識障害を呈し、
巧緻運動障害と構音障害が残存した一例

2020年10月20日(火)18:30~

発表者 富山大学 神経精神科 仲間 佳子
担当 富山大学
対象 参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

【参加方法】
個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンス開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。カンファレンス後にWeb上で質疑をします。

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。
- ・上記以外で参加を希望される方は10月19日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】北陸認プロ運営事務局
〒920-8640金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:<http://ninpro.jp/>



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第66回デメンシアカンファレンス(Web)

2020年11月24日(火)18:30~

「臨床症状と画像検査で 解離した所見であった認知症の高齢者女性」

発表者:福井大学医学部精神医学 真田康雄
担当:福井大学
対象:認プロ参加施設及びその他の施設の
医療関係者(医療系大学の学生含む)

【参加方法】
個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンス開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。カンファレンス後にWeb上で質疑をします。

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。
- ・上記以外で参加を希望される方は11月23日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】
北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208 E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL:<http://ninpro.jp/>



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)
第67回デメンシアカンファレンス(Web)

治療同意に難渋した一例

2020年12月16日(水)18:30~20:00

発表者 金沢医科大学 高齢医学 奥野 太寿生
担当 金沢医科大学
対象 参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

【参加方法】
個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンスの開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。

教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。

上記以外で参加を希望される方は12月15日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

【お問い合わせ・参加申し込み先】
北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149 / FAX:076-234-4208
E-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp / URL: <http://ninpro.jp/>



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第68回デメンシアカンファレンス(Web)

2021年1月26日(火)18:30~

「末梢神経障害と認知機能低下を伴い、
MRIで脳梁膨大部に異常信号を認めた1例」

発表者:金沢大学附属病院脳神経内科 吉村敬介
担当:金沢大学
対象:認プロ参加施設及びその他の施設の
医療関係者(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当
の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファ
レンス開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。カンファレ
ンス後にWeb上で質疑をします。

・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、
認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営
事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに
従って会議にご参加下さい。

・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事
務局が確認します。

・上記以外で参加を希望される方は1月25日までに氏名とメールア
ドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。

(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】

北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208 E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL:http://ninpro.jp/



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第69回デメンシアカンファレンス(Web)

2021年2月9日(火)18:30~

「亜急性に進行した認知症で、
MRIにて両側海馬に異常信号を呈した一例」

発表者:富山大学脳神経内科 山本 真守
担当:富山大学
対象:認プロ参加施設及びその他の施設の
医療関係者(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、
当の間、集団形式+テレビ会議システムによるデメンシアカ
ンファレンス開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。
カンファレンス後にWeb上で質疑をします。

・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参
加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで
参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。

・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認
します。

・上記以外で参加を希望される方は2月8日までに氏名とメールアドレス
を北陸認プロ運営事務局までお知らせ下さい。

(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】

北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208 E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL:http://ninpro.jp/



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第70回デメンシアカンファレンス(Web)

2021年3月10日(水)18:30~

「原発性進行性失語の1例
(1つの目安としての分類)」

発表者:福井大学医学部脳神経内科
白藤 法道

担当:福井大学
対象:認プロ参加施設及びその他の施設の
医療関係者(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当
の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファ
レンス開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。カンファレ
ンス後にWeb上で質疑をします。

・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、
認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営
事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに
従って会議にご参加下さい。

・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事
務局が確認します。

・上記以外で参加を希望される方は3月9日までに氏名とメールア
ドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。

(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】

北陸認プロ運営事務局 〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208 E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL:http://ninpro.jp/

【資料13】

令和2年度教育コース履修者アンケート集計(回答人数5名(うち修了者2名))

() 内に回答件数を表示しました。

※履修中もしくは修了した教育コースを下記より選び、番号に○を付けてください。

1. 本科コース (4)
2. インテンシブコース (0)
3. スペシャルコース (1)
4. スーパーコース (0)

【e-learning 講義について】

Q1 e-learning 講義を利用していますか？

1. よく利用している (1)
2. 利用している (4)
3. あまり利用していない (0)
4. 受講したことがない (Q3 へ) (0)

Q2 e-learning 講義は認知症の学習に役立っていますか？

1. 非常に役立っている (2)
2. 役立っている (3)
3. どちらともいえない (0)
4. あまり役立っていない (0)
5. 全く役立っていない (0)

Q3 e-learning 講義について、改善した方がよい点やコメントなどあればご記入ください。

- ・記述なし

【イベントについて】

Q4 令和元年度、参加したイベントは何ですか？(複数回答可)

1. デメンシアカンファレンス (5)
2. 認プロFD講演会 (3)
3. いずれも参加したことがない (Q6 へ) (0)

Q5 Q4で参加したイベントのうち、認知症の学習に役立ったイベントは何ですか？(複数回答可)

1. デメンシアカンファレンス (5)
2. 認プロFD講演会 (3)

Q6 Q4で参加したイベントの良かった点、改善した方がよい点、今後参加してみたいイベントの内容があればご記入ください。

- ・オンラインでのデメンシアカンファレンスで音が反響して聞きづらいときがありました。

【教育コース修了後の活動について】

令和元年度教育コース修了者にお訊ねします。

Q7 現在の勤務先を下記より選び、番号に○を付けてください。

1. 大学病院 (1)
2. 公立病院 (0)
3. 私立病院・医院 (1)
4. 施設 (0)
5. その他 () (0)

Q8 履修中に参加したイベントは何ですか？（複数回答可）

1. デメンシアカンファレンス (2)
2. 認プロFD講演会 (2)
3. キャリアアップ支援セミナー (0)
4. 認知症チーム医療・ケアセミナー (0)
5. 認知症地域連携・多職種ワークショップ (0)
6. 認プロシンポジウム (1)
7. 認プロ市民公開講座 (0)
8. いずれも参加したことがない (Q11 へ) (0)

Q9 Q8で参加したイベントのうち、認知症の学習に役立ったイベントは何ですか？（複数回答可）

イベントの番号をご記入ください。

- ・ 1、2

Q10 認プロ教育コースで受講した内容は、修了後の活動に役立っていますか？

1. 非常に役立っている (0)
2. 役立っている (2)
3. どちらともいえない (0)
4. あまり役立っていない (0)
5. 全く役立っていない (0)

Q11 Q10で、具体的にどのように役立っているか、もしくは活動に生かす上で改善すべきと思われる点について教えてください。

()

【その他】

Q12 その他、認プロについてご意見やご要望がございましたらご記入ください。

- ・ 準備大変と思いますが継続していただきたいと思います。よろしくお願ひします。

【資料14】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ） 令和2年度 第1回事業推進委員会議事概要

日 時：令和3年2月1日（月）18：50～19：00
開催方法：個人のPCでWeb会議システム（WebEX）を使用

<事業推進委員>

【出席】：中村 裕之（金沢大学医薬保健学域長、認プロ 事業推進責任者）、山田 正仁（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学（脳神経内科学）教授、認プロ プロジェクトリーダー）、宮岸 良彰（金沢大学附属病院神経科精神科 助教、菊知 充 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科精神行動科学 教授：代理）、鈴木 道雄（富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学 教授）、中辻 裕司（富山大学附属病院脳神経内科 教授）、小坂 浩隆（福井大学医学部病態制御医学精神医学 教授）、濱野 忠則（福井大学医学部病態制御医学内科学（2）准教授）、川崎 康弘（金沢医科大学精神神経科学 教授）、松井 真（金沢医科大学神経内科学 教授）、大黒 正志（金沢医科大学高齢医学科 教授）

【欠席】：森本 茂人（金沢医科大学病院認知症センター センター長）

<事務局>

進藤 桂子（金沢大学医薬保健研究域医学系 特任助教）、村田 靖（金沢大学医薬保健系事務部 部長）、上谷 順彦（金沢大学医薬保健系事務部 学生課長）、尾上 早知子（北陸認プロ運営事務局）、加藤 美和子（北陸認プロ運営事務局）、高橋 華代子（富山大学医薬系学務課）、武藤 香子（福井大学総務部松岡キャンパス運営管理課 総務担当主査）、石野 道香（金沢医科大学学事部教学課 大学院医学研究科担当）

議事に先立ち、運営事務局から、出席者の確認の後、定足数が本委員会の開催、議決要件を充足している旨の報告があった。

1. 開会の挨拶

山田正仁委員長から、開会の挨拶があった。

2. 報告事項

(1) 令和2年度事業実施報告

(2) アドバイザリーボードによる令和2年度の外部評価の紹介

山田正仁委員長から、報告事項（1）、（2）は直前に開催された令和2年度第1回運営協議会において既に報告済みであり、詳細な説明は省略する旨が伝えられた。

(3) 令和2年度第1回運営協議会における意見の報告

事務局より令和2年度第1回運営協議会における意見についての報告があった。

3. 審議事項

(1) 令和3年度事業実施計画策定について

山田正仁委員長から、資料3に基づき、次年度も新規事業が獲得できなければ、今年度同様に各大学の必要最小限の活動を自己資金により事業を継続する旨と、会議及びデメンシアカンファレンス等の開催形式をテレビ会議システムからWeb会議システムへ変更し、引き続きWeb上での事業を継続する旨の説明があった。

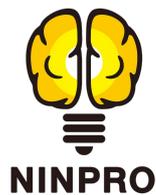
また、山田正仁委員長から、令和3年度3月末で定年により金沢大学を退任するため、今後はアドバイザー的な立場で関わっていきたいと説明があった。

審議の結果、審議事項（1）は、原案どおり了承された。

4. 閉会の挨拶

山田正仁委員長から、各委員への謝辞と閉会の挨拶があった。

以上



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

令和3年度

教育コース履修者募集要項

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
富山大学大学院医学薬学教育部
福井大学大学院医学系研究科
金沢医科大学大学院医学研究科



金沢大学



富山大学



福井大学



金沢医科大学

目 次

・ 教育コース履修者の募集について	1
・ 北陸認知症プロフェッショナル医養成プランについて	2
・ 教育コースの概要	
○認知症チーム医療リーダー養成コース(本科コース)	
金沢大学	3
富山大学	4
福井大学	5
金沢医科大学	6
○地域認知症専門医師研修コース(インテンシブ)	
金沢大学	7
富山大学	8
福井大学	9
金沢医科大学	10
○認知症・神経難病の臨床病理研修コース(スペシャル)	
金沢大学	11
○地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース(スペシャル)	
金沢大学	12
○認知症スーパープロフェッショナル養成のための 卒前・卒後一貫教育コース(スーパーコース)	
金沢大学	13

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
教育コース履修者の募集について

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）は、超高齢社会を背景に認知症の分野で特に高度な知識・技術を有する医師が求められていることから、ハイレベルの認知症専門医師の育成を目的として設置されたプログラムです。北陸の医科系4大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携してプログラムを実施しており、平成26年度から平成30年度までは、文部科学省の補助金「課題解決型高度医療人材養成プログラム」により、令和元年度からは各大学の自己資金により運営されています。

教育コースには、認知症チーム医療のリーダーとして活躍できる認知症専門医師を養成する「認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）」を中心に、5つのコースを設置しています。「インテンシブコース」は、医師の方であれば全国どの地域にお住まいでも履修可能です。

なお、医師以外で認知症に関わる職種の方は別途「メディカルスタッフ e-learning 講座」にて、e-learning 講義の聴講が可能ですので、お申し込み下さい。詳細は、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）運営事務局へお問い合わせください。

1. 募集コース

- ① 認知症チーム医療リーダー要請コース（本科コース）
（高度の知識・技術を有する認知症チーム医療リーダー医師の養成）
募集大学：【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】
- ② 地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）
（地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修）
募集大学：【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】
- ③ 認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）
（認知症・神経難病の臨床・病理研修）
募集大学：【金沢大学】
- ④ 地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）
（地域フィールド研修などの特色のある領域の短期研修）
募集大学：【金沢大学】
- ⑤ 認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）
（卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医の養成）
募集大学：【金沢大学】

2. 対象者

認知症に携わる医師、医学部生、医系の大学院生

3. 履修受け入れ人数

履修受け入れ人数には制限を設けていません

4. 受講料

無料（大学生又は大学院生は、別途大学又は大学院の授業料を納付ください。）

5. 受け入れ時期

本科コース：4月又は10月、他のコース：随時

6. 申請書類

- ・北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）履修申請書（所定様式）
 - ・卒業証明書（本科コース、スーパーコース申請者は不要）
- ※履修申請書は、申請する大学の事務担当（本要綱裏面に記載）までご請求ください。
※上記書類を申請する大学までご郵送ください。

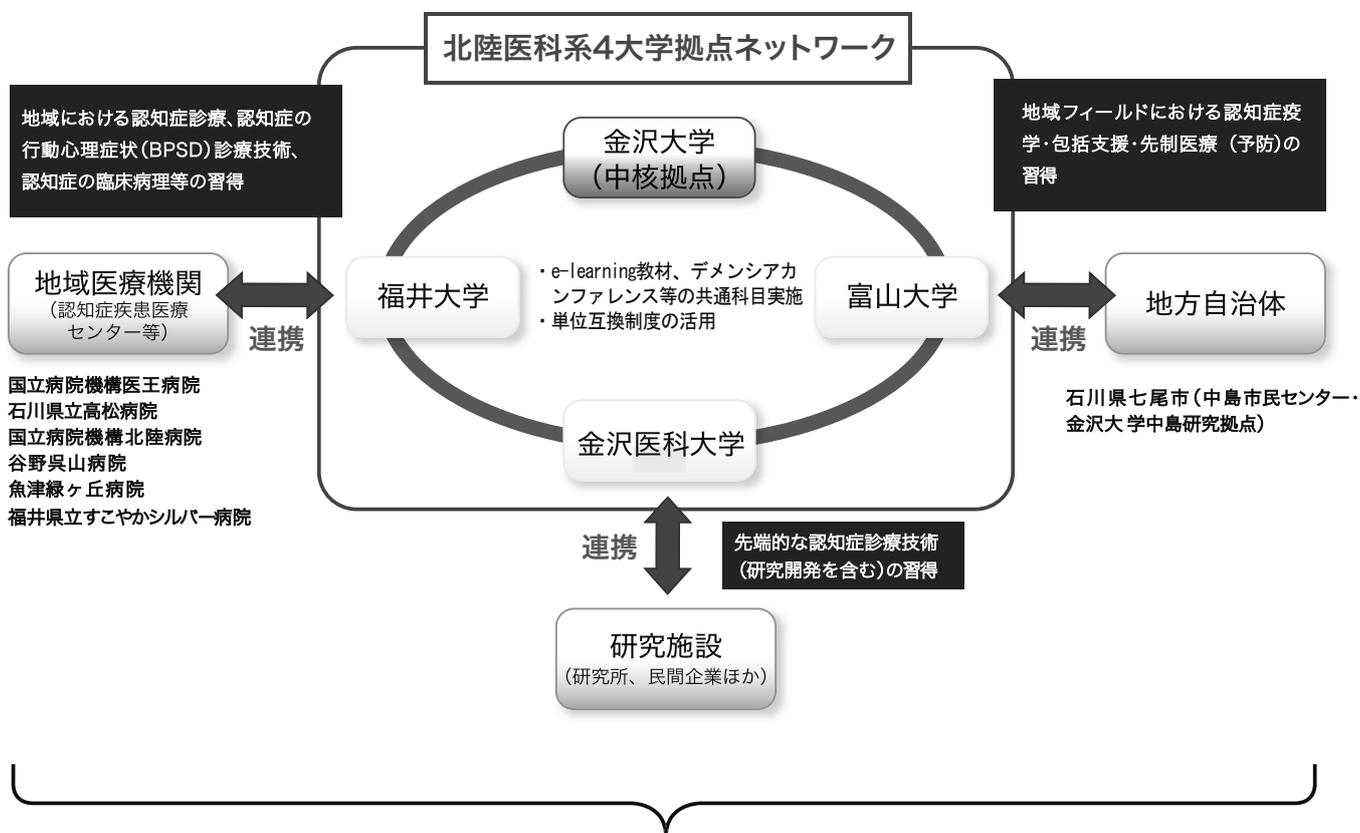
7. 修了要件

各コース修了要件の項参照

8. 修了時期

全コース 9月又は3月

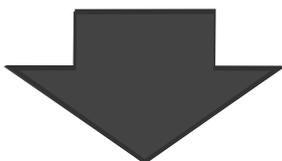
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン



大学拠点間のネットワークを活用した

地域医療機関・研究施設・自治体との連携による特色のあるプログラムの設置

1. 認知症チーム医療リーダー養成コース (本科コース) (大学院生が対象、全大学に設置するメインプログラム)
2. 地域認知症専門医師研修コース (インテンシブ) (地域医療機関に勤務する医師が対象、全大学に設置)
3. 認知症・神経難病の臨床病理研修コース (スペシャル)
4. 地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース (スペシャル)
5. 認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース (スーパーコース)



養成する人材

認知症に関して高度な知識や技能を有し、地域における認知症診療・認知症対策のリーダーとなる認知症プロフェッショナル医師を養成する。

教育コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院生
修業年限（期間）	4年（早期修了には当該課程への3年以上の在籍が必要。）
養成すべき人材像	国際的視野を有し、認知症診療に関する幅広い知識・技術を有する認知症診療専門医師、認知症チーム医療のリーダー
修了要件	認知症プロフェッショナル授業科目8単位を含む30単位以上の授業科目の履修と、認知症に関する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>認知症プロフェッショナル授業科目*（8単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。）</p> <p>*認知症プロフェッショナル科目（4大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。</p> <p>デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。</p>
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	<p>本コースでは、地域医療機関等との連携のもとに、認知症性疾患の理解、ハイレベルの認知症診療能力育成に必須の認知症関連授業科目を履修し単位を取得し、併せて認知症関連論文を学位論文として完成させる。認知症関連授業科目の教育内容は、疾患修飾薬臨床試験（金沢大学附属病院）等の先端の認知症診療技術の習得、地域（七尾市との共同で認知症地域プロジェクトを実施中）における認知症疫学・先制医療・包括支援の習得、多数の剖検を実施している神経難病専門施設（国立病院機構医王病院）との連携による神経病理学的基盤の理解、認知症専門施設（石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院）との連携による認知症の行動心理症状（BPSD）及び重度認知症の診療技術の習得などの特色を有し、学会認定教育病院における研修を要件とする認知症専門医取得のために要求される研修内容を遥かに超えた教育内容を備えている。</p>
指導体制	<p>大学および連携機関に所属する認知症の各領域のエキスパートであるスタッフが、認知症の臨床、基礎、研究について直接指導する体制をとる。具体的には、金沢大学の認知症専門医師・研究者を中心に、当地域の認知症疾患医療センターである石川県立高松病院及び国立病院機構北陸病院（地域認知症・BPSD 診療）、国立病院機構医王病院[神経難病・神経病理研修（日本神経病理学会認定施設）]、石川県七尾市（金沢大学との連携による認知症早期発見、予防、地域包括支援）、横河電機・金沢事業所（MEG 検査）において指導にあたる。</p>
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>本コースで養成された人材は、認知症診療に関する世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフや地域における認知症診療のリーダーとして認知症診療向上、認知症チーム医療推進に貢献する。</p>
受け入れ時期	令和3年4月または10月
募集人員	2名（制限定員ではありません。）

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学薬学教育部生命・臨床医学専攻および生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻大学院生
修業年限（期間）	4年（早期修了には当該課程への3年以上の在籍が必要。）
養成すべき人材像	認知症高度診療専門医師（認知症チーム医療リーダー）
修了要件	認知症プロフェッショナル授業科目8単位を含む30単位以上の授業科目の履修と、認知症に関する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>認知症プロフェッショナル授業科目*（8単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。）</p> <p>*認知症プロフェッショナル科目（4大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。</p> <p>デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。</p>
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	認知症の臨床研究等に精通した専門医を育成する。多職種連携教育を推進し、チーム医療の中心となる人材を育成する。
指導体制	認知症専門家であるスタッフ等が、認知症の臨床、基礎、研究について直接指導する。具体的には富山大学の医師を中心に、当地域の認知症疾患医療センターである谷野呉山病院、魚津緑ヶ丘病院および国立病院機構北陸病院とも連携して指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	認知症診療・教育・研究の中心となって、チーム医療リーダーとして認知症医療・医学の質の向上に貢献する。
受け入れ時期	令和3年4月または10月
募集人員	1名（制限定員ではありません。）

大学名等	福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学系研究科先端応用医学専攻大学院生
修業年限（期間）	4年（早期修了には当該課程への3年以上の在籍が必要。）
養成すべき人材像	認知症診療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、本学の特色を活かしたPET、MRIの機能画像診断を用いた卓越した臨床研究活動が可能な医師
修了要件	認知症プロフェッショナル授業科目8単位を含む30単位以上の授業科目の履修と、認知症に関する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>認知症プロフェッショナル授業科目*（8単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。）</p> <p>*認知症プロフェッショナル科目（4大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。</p> <p>デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。</p>
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	<p>北陸認知症プロ養成プログラム・北陸認知症プロチーム養成基盤形成プランの科目（以下、北陸認プロ科目）を履修すると共に、本学医科学専攻の機能画像医学部門（高エネルギー医学研究センター担当）の科目を履修することにより、認知症画像診断の最先端の知識・技能を修得することを特色とする。</p> <p>また認知症の早期診断・予防につながる検診事業や、かかりつけ医との連携を推進できる人材を育成する。併せて、認知症関連論文を学位論文として完成させる。</p>
指導体制	大学院教員を中心とした直接指導、デメンシアカンファレンス等による広汎な研修を組み合わせた指導体制をとる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	認知症診療・研究のリーダーとなる卓越した認知症専門医師が育成され、アカデミアや中核医療機関のスタッフとして活躍する。
受け入れ時期	令和3年4月または10月
募集人員	1名（制限定員ではありません。）

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院生
修業年限（期間）	4年（早期修了には当該課程への3年以上の在籍が必要。）
養成すべき人材像	「認知症患者の視点」に立った「視野の広い、且つ高い品格」のある「認知症医療」を担うリーダーとなる専門医師を養成する。
修了要件	認知症プロフェッショナル授業科目8単位を含む30単位以上の授業科目の履修と、認知症に関する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>認知症プロフェッショナル授業科目*（8単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。）</p> <p>*認知症プロフェッショナル科目（4大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。</p> <p>デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。</p>
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	高い臨床能力と研究能力を併せ持つ認知症専門医養成のための融合型教育システムの構築を特色とする。
指導体制	精神科、神経内科、高齢医学科の3科に所属するスタッフが、それぞれの専門性を活かした指導体制をとる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域における高度の知識・技能を有する専門医師として、全人的認知症医療を行い、認知症の早期発見・都市部の専門病院との地域連携を促進する医師として活躍する。
受け入れ時期	令和3年4月
募集人員	1名（制限定員ではありません。）

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）
対象者	地域で認知症診療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	1年（延長可）
養成すべき人材像	地域における認知症診療について病病連携、病診連携ができる優れた認知症診療能力を有する医師（認知症診療推進病院・協力病院・その他の病院・診療所に勤務する医師）
修了要件	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち4単位以上を履修する。
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	認知症疾患の病態・神経病理、認知症診断学、放射線・核医学、治療薬、BPSD 治療、地域包括支援・ケアに関して、e-learning クラウド等を利用して自己学習を行うと共に、デメンシアカンファレンスへの出席による演習を行う。また適宜、講師の派遣による出張演習も行う。 e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	大学および連携機関に所属する認知症の各領域のエキスパートであるスタッフ（本科コースの指導体制を参照）が、認知症とその原因疾患の診断・治療について、e-learning やデメンシアカンファレンス等を活用して幅広く能率的に指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースを修了した医師は、認知症について水準以上の知識・技能を有する医師として地域医療機関で活躍し、地域における認知症診療の均てん化、適切な連携に基づく病院機能分担の促進に貢献する。
受け入れ時期	随時
募集人員	2名（制限定員ではありません。）

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	1年（延長可）
養成すべき人材像	地域医療機関などで認知症医療に携わる医師が、より専門性の高い教育を受けることにより、地域認知症医療の中心的役割を果たす。
修了要件	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち4単位以上を履修する。
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	高齢化が進む過疎地域の医療機関に勤務する医師にも受講を容易にするためのシステムを構築し、能率よく認知症に関する適切な知識や技能を身につけることが可能になる。 e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	大学や地域医療機関等の認知症エキスパート医師による直接指導、e-learningおよびテレビ会議システム等を通じた指導を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了により、地域における地域全体の認知症医療の質の向上と均てん化を図るとともに、認知症医療人の地域への定着を推進する。
受け入れ時期	随時
募集人員	2名（制限定員ではありません。）

大学名等	福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	1年（延長可）
養成すべき人材像	地域の病院や診療所において、高水準の認知症診療、地域連携、在宅医療等を行うことができる医師
修了要件	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち4単位以上を履修する。
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	認知症診療の基本から、BPSD の対策、終末期医療まで、認知症の各病期に対応した、幅広い全人的医療を習得することができる。e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	認知症エキスパート医師による指導、e-learning およびデメンシアカンファレンス等を通じた学習を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域において認知症の診療、地域連携、ケア等を適切に行うことのできる医師として活躍する。
受け入れ時期	随時
募集人員	2名（制限定員ではありません。）

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師養成コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	1年（延長可）
養成すべき人材像	地域医療機関で高水準の認知症診療を行うことができる医師を養成する。
修了要件	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち4単位以上を履修する。
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	ICTの活用とスクーリングによる各特論の受講と、テレビ会議システム活用によりデメンシアカンファレンス参加や各演習科目の履修を行い、効率的な学習を可能とする。 e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	認知症エキスパート医師による指導、e-learning およびデメンシアカンファレンスシステム等を通じた学習を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了後、大学病院等と緊密な連携をとって地域における認知症診療を向上させていくことができる「認知症プロフェッショナル医」として活躍する。
受け入れ時期	随時
募集人員	2名（制限定員ではありません。）

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻 (国立病院機構医王病院と連携)	
教育プログラム・コース名	認知症・神経難病の臨床病理研修コース (スペシャル)	
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻 (社会人) 大学院生 (平成27年度以前の入学者は、脳医科学専攻) ほか	
修業年限 (期間)	1年 (延長可)	
養成すべき人材像	認知症・神経難病の臨床神経病理の基礎を身につけた専門医師	
修了要件	認知症・神経難病の臨床神経病理に関わる科目等 (下記) を4単位以上の履修	
履修科目等	認知症・神経難病の臨床病理実習: 国立病院機構医王病院における臨床・神経病理実習 (3単位・90時間) (必修) 認知症プロフェッショナル科目『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照) について、デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域での学会、セミナー、研究会等への参加、e-learning授業等に参加。(1単位以上の取得を義務づける。)	
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	本コースにおいては、社会人大大学院生として国立病院機構医王病院における実習(臨床・神経病理研修)を義務化し、認知症の原因となる神経難病の臨床及び神経病理(分子病態を含む)を習得するために必要な教育を行う。国立病院機構医王病院・臨床研究部では認知症疾患を含む神経難病の剖検の実績があり、剖検率は約50%である。	
指導体制	認知症・神経難病の臨床(日本神経学会及び認知症学会の専門医)及び神経病理の専門家(日本神経病理学会の評議員で学会認定施設である金沢大学、医王病院に所属)が指導者として、直接指導にあたる。	
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了後、神経難病・認知症の臨床病理の基礎を身につけた専門家として認知症の臨床現場のリーダー(認知症・神経難病の専門医師)あるいは大学や研究機関の研究者として活躍する。	
受け入れ時期	随時	
募集人員	大学院生又は 地域医療機関等に勤務する医師	1名(制限定員ではありません。)

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻	
教育プログラム・コース名	地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）	
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院生（平成27年度以前の入学者は、脳医科学専攻）ほか	
修業年限（期間）	1年（延長可）	
養成すべき人材像	地域フィールドにおいて認知症疫学、早期発見、予防、ケア等に関する幅広い知識・技能を有する専門医師	
修了要件	認知症疫学・予防・ケア等に関わる科目等（下記）を4単位以上履修	
履修科目等	地域認知症疫学・予防・ケア実習（3単位・90時間）（必修） 認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）について、デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域での学会、セミナー、研究会等への参加、e-learning授業等に参加。（1単位以上の取得を義務づける。）	
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	金沢大学は七尾市との連携により七尾市中島町をフィールドとする認知症地域プロジェクト（なかじまプロジェクト）の実績があり、七尾市中島市民センターに金沢大学中島研究拠点を設置している。本コースは、中島町を地域フィールドとして認知症調査、予防、認知症ケア・包括支援等に関する実習を行う独自のプログラムである。	
指導体制	金沢大学において当該地域フィールド認知症研究を行っている教員（金沢大学革新予防医科学共同大学院において認知症先制医療学を担当予定の教員を含む。）、保健師等の地域自治体職員、当該地域の医療機関スタッフ等が一体となって実習指導にあたる。	
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースの修了者は、認知症診療ばかりでなく、地域で急増する認知症に対する対策の立案（予防介入実践、認知症になっても笑顔で暮らせる地域など）等の幅広い領域で活躍する認知症プロフェッショナル医師となる素地をつくることことができる。	
受け入れ時期	随時	
募集人員	大学院生又は 地域医療機関等に勤務する医師	1名（制限定員ではありません。）

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）
対象者	金沢大学医薬保健学域医学類学生～医薬保健学総合研究科医学専攻大学院生の一貫コース
修業年限（期間）	4年以上（医学類在学）+4年（大学院在学・早期修了には当該課程への3年以上の在籍が必要。）
養成すべき人材像	高度の認知症診療力ばかりでなく、国際的に活躍できる研究能力を有する認知症専門医師
修了要件	卒前研究（Medical Research Training (MRT)プログラム等）及び大学院課程による。（MD-PhD コースを含む。）大学院では認知症プロフェッショナル授業科目10単位を含む30単位以上の授業科目の履修と、認知症に関する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	卒前：MRT プログラム等における認知症関連研究（必修） 卒後：認知症プロフェッショナル授業科目*（10単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。） *認知症プロフェッショナル科目：認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）の記述を参照。
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	卒前の MRT プログラム（金沢大学医薬保健学域医学類学生のためのリサーチプログラム）やMD-PhD コースにおいて、認知症に関する研究マインドを植付け、基礎から臨床までの幅広い研究活動[試験管内研究やモデル動物を用いた基礎研究から、神経病理学的研究、臨床研究、モデル地域における疫学研究や予防介入研究（なかじまプロジェクト）]に従事し、卒後臨床研修期間中も研究を継続できる、高い認知症研究能力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成のための卒前・卒後一貫教育コースであり、認知症に関する高度かつ広範囲な領域をカバーする独自のプログラムである。
指導体制	大学、地域医療機関、研究機関、地域自治体等において、大学教員が中心となって、学類学生～初期研修～大学院生に渡る一貫した指導体制をとる。（本科コースの指導体制を参照。）その間、必要に応じ短期海外留学を行い、国際一流学術誌に論文が掲載されるよう指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	国際的に活躍する認知症専門家、研究者として、アカデミアを中心として活躍し、21世紀の超高齢化社会における認知症医療・医学を指導する立場となる。
受け入れ時期	医学類1年次の4月～医学類3年次の4月
募集人員	1名（制限定員ではありません。）

各大学事務担当



【金沢大学】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）運営事務局

〒920-8640 石川県金沢市宝町 13 番 1 号 金沢大学医薬保健学域医学類B棟2階
e-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp



【富山大学】

医薬系学務課大学院教務チーム

〒930-0194 富山県富山市杉谷 2630 番地
e-mail mpin@adm.u-toyama.ac.jp



【福井大学】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）福井事務局

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23 番 3 号
e-mail n-pro@ml.u-fukui.ac.jp



【金沢医科大学】

金沢医科大学教学課（大学院医学研究科担当）

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1 丁目 1 番地
e-mail d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

令和3年度

履修案内

認プロの紹介

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)は、超高齢社会を背景に認知症の分野で特に高度な知識・技術を有する医師が求められていることから、ハイレベルの認知症専門医師の育成を目的として設置されたプログラムです。北陸の医科系4大学(金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学)が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携して実施しています。

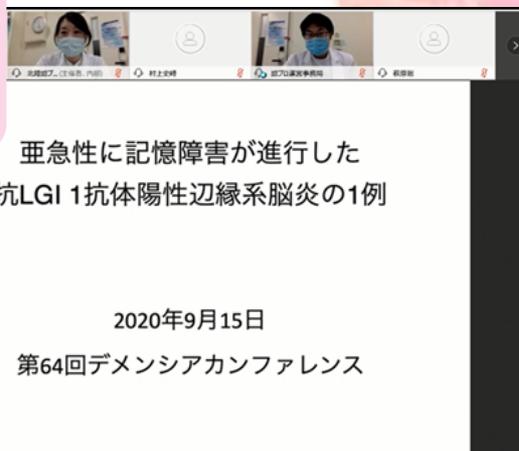
教育コースには、認知症チーム医療のリーダーとして活躍できる認知症専門医を養成する「認知症チーム医療リーダー養成コース」(本科コース)を中心に、5つのコースを設置しています。(裏表紙を参照してください)。令和3年3月末日現在、105名が認プロ教育コースを履修しています。

医師以外で認知症に関わる職種(看護師、保健師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、研究者、製薬関係など)の方に対しては、「認知症メディカルスタッフe-learning講座」を提供しており、令和3年2月末日現在、2,186人が受講しています。Web上で視聴することができるため、全国どこの地域からでも好きな時間に受講することが可能です。

認プロでは認知症症例の検討を行うデメンシアカンファレンスを毎月行っております。これらはWeb会議システムで運用されており、全国どこからでも参加が可能です。

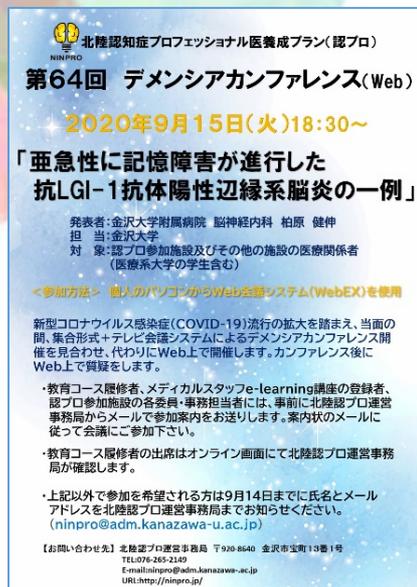
デメンシアカンファレンス

10施設(4大学と連携6病院)をWeb会議システムで結び、月に一度診断や治療に難渋した症例検討を行う。



亜急性に記憶障害が進行した
抗LGI1抗体陽性辺縁系脳炎の1例

2020年9月15日
第64回デメンシアカンファレンス



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)
NINPRO
第64回 デメンシアカンファレンス(Web)
2020年9月15日(火)18:30~

「亜急性に記憶障害が進行した
抗LGI-1抗体陽性辺縁系脳炎の1例」

発表者: 金沢大学附属病院 脳神経内科 柏原 健伸
担当: 金沢大学
対象: 認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

<参加方法> 個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の拡大を踏まえ、当面の間、集合形式+テレビ会議システムによるデメンシアカンファレンス開催を見合わせ、代わりにWeb上で開催します。カンファレンス後にWeb上で質疑をします。

- ・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加下さい。
- ・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

上記以外で参加を希望される方は9月14日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。
(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問い合わせ先】 北陸認プロ運営事務局 〒930-8540 金沢市宝町10番1号
TEL:076-265-2169
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:https://ninpro.jp/

e-learning講義

インターネットを利用し、Web上で講義を視聴する。時間があるときに、全国のどこの地域からも受講が可能であり、何度でも視聴できる。講義科目は確認テストを除き7科目40コマを提供している。



認知症基礎 第1回
認知症の概要と疫学

講師 山田 正仁 金沢大学大学院医歯薬保健学総合研究科
脳老化・神経病態学(神経内科学) 教授

認知症の定義、原因疾患、疫学など、認知症についての概要を学ぶ。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
認知症基礎
認知症の概要と疫学

金沢大学大学院 脳老化・神経病態学(神経内科学)
-68- 山田 正仁

e-learning講義の
ビデオ講義



金沢大学
本科コース
山口 浩輝 先生

認プロで特にお勧め出来る点は、デメンシアカンファレンス、FD講演会、e-learningです。デメンシアカンファレンスでは4つの大学と6つの病院をテレビ会議の装置で繋ぎ、リアルタイムで症例検討会（デメンシアカンファレンス）を行うことができます。自科では経験しないような症例も多く、勉強になる点が多いです。FD講演会では、認知症における各分野のプロフェッショナルを外部からお招きして、先ほどと同じくテレビ会議の装置で繋ぎ、講演を聞くことができます。基礎的なことから実践的なこと、将来の展望なども学ぶことができますので、モチベーションが上がります。e-learningでは、認知症疾患の基礎と臨床を専門医の解説付きで詳しく学べます。動画で何度も視聴できますし、最後に試験も付いていますので、日々の臨床に出る前に基礎的な知識を身に付けるために最適だと思います。

私は本来糖尿病専門医です。長年診療していて、かつては血糖自己測定、インスリン自己注射をこなしていた患者達が、そのうち認知症のため出来なくなっていく様子を沢山目の当たりにしてきました。とても全員を認知症専門医に依頼することはできません。専門性が高い認知症診療ですが、少しは自分で行おうと思いました。

デメンシアカンファレンスでは沢山の貴重な症例をCPCのような手法で見せて頂きました。一方e-learningでは系統的に知識を学び整理できるようになっています。

私のように非専門医でありながら認知症診療を目指す方達にとっても良いシステムと思います。



富山大学
インテンシブコース
石橋 修 先生

私は金沢大学の神経内科専門医コースを選択し、スーパーコースを履修しております。

私が認プロを受講した理由としては、神経内科医を目指すにあたって学習のモチベーションを保ち、講義では触れる機会が少ない診断に難渋する認知症の症例提示を拝聴することができるからです。

症例提示ではこれまで知らなかった病態や病名、近年同定された遺伝子などを知り、認知症という分野の奥深さを感じました。また、コースを履修することで神経内科の先生方とも仲良くなることができ、疑問点などがあれば先生方が気さくに答えてくれるので学生の方はとても勉強になると思います。



金沢大学
スーパーコース
谷口 優 さん

私が認プロを受講した理由は、日々の認知症の診療に生かすためです。認知症症状を主とする疾患は多くありますが、その中には、嗜銀顆粒性認知症や神経原線維型認知症など神経病理学的研究により見いだされてきた疾患が多く含まれています。また、認知症の臨床症状は非常に多彩であり、臨床診断と最終的な病理診断が異なるということもあります。

認プロでは、急性期の病院と慢性期の病院が連携して、デメンシアカンファレンスを開催しており、そこでは臨床経過とともに病理診断が提示されます。実際に、診療した患者さんが慢性期病院に移ってからどのような経過を辿ったのか、病理診断はどうだったのかを経時的に学ぶことで、日々の認知症の診療の精度が向上していくと考えます。このような、発症から病理診断までを経時的に学べる場として認プロは非常に優れており、普段から認知症の診療に関わっている先生方には是非お勧めしたいと思います。



金沢大学
スペシャルコース
赤木 明生 先生

<教育コース>

- ①認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
（高度の知識・技能を有する認知症チーム医療リーダー医師の養成）
募集大学【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】

- ②地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）
（地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修）
募集大学【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】

- ③認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）
（認知症・神経難病の臨床・病理研修）
募集大学【金沢大学】

- ④地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）
（地域フィールド研修などの特色ある領域の短期研修）
募集大学【金沢大学】

- ⑤認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）
（卒前卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医の養成）
募集大学【金沢大学】

各大学連絡先



【金沢大学】
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）運営事務局
〒920-8640 石川県金沢市宝町13番1号 金沢大学医薬保健学域医学類B棟2階
e-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp



【富山大学】
医薬系学務課大学院教務チーム
〒930-0194 富山県富山市杉谷2630番地
e-mail mpin@adm.u-toyama.ac.jp



【福井大学】
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）福井事務局
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23番3号
e-mail n-pro@ml.u-fukui.ac.jp



【金沢医科大学】
金沢医科大学教学課（大学院医学研究科担当）
〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地
e-mail d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp

地域認知症専門医師研修(インテンシブ)コースのご案内

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)は、真の認知症プロフェッショナル医の育成を目指して活動しています。

『地域認知症専門医師研修(インテンシブ)コース』は、認知症診療に関心のある医師、歯科医師の先生方を対象とした教育コースです。

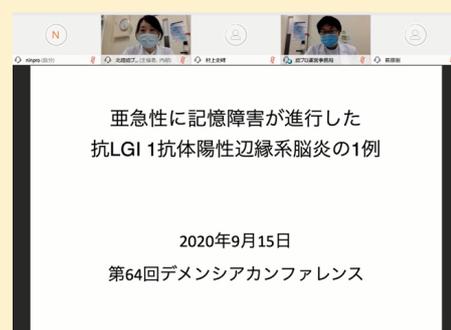
このコースでは、インターネットを利用した『e-learning講義¹⁾』(7科目40コマの講義科目を裏面に掲載)や、Web会議システムを用いて北陸3県の拠点大学及び関連医療機関を結び、毎月1回症例検討を行う『デメンシアカンファレンス²⁾』など、認知症診療のスキルアップに役立つカリキュラムを用意しています。

1) e-learning講義の視聴と確認テスト



『1. 認知症基礎』第1回 認知症の概要と疫学
担当: 金沢大学大学院
脳老化・神経病態学(脳神経内科学)
教授 山田 正仁先生

2) デメンシアカンファレンス



Web会議の様子

※令和2年度の開催実績は裏面に記載

「地域認知症専門医師研修(インテンシブ)コース」の履修をご希望の方へ

<履修について>

- ・履修申請書にご記入のうえ、卒業証明書を添えて、申請をご希望の大学の事務担当までご郵送ください。
- ・履修申請書は、認プロHPの募集要項のバナーから所定様式をダウンロードまたは当事務局までお問い合わせください。

<単位取得について>

- ・『e-learning講義』の視聴、確認テストの受験と『デメンシアカンファレンス』の参加の組み合わせで単位取得が可能です。

<修了要件について>

- ・各地域の連携地域医療機関での、認知症診療を必須とします。
- ・認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得が必要です。

<受講料について>

- ・無料です。

<定員や応募年齢について>

- ・特に制限はありません。

<履修期間について>

- ・1年間(延長可)となります。

※詳細は、認プロ教育コース履修案内<<http://ninpro.jp/top-info/2389>>をご参照ください。

詳細は、認プロHPまたは募集要項をご覧ください



【お問い合わせ】北陸認プロ運営事務局(金沢大学)
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL: 076-265-2149 FAX: 076-234-4208
e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL: <http://ninpro.jp/>

e-learning講義科目一覧表

科目	回	テーマ	授業担当者名	授業担当者所属
1 認知症基礎	1回	認知症の概要と疫学	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	2回	認知症の病理学	坂井 健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
	3回	認知症の分子遺伝学	濱口 毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
	4回	認知症の神経化学（神経伝達物質）・神経免疫学	岩佐 和夫	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	5回	認知症の蛋白化学	小野 賢二郎	昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門
	6回	アミロイドシスの分子機構	内木 宏延	福井大学医学部 分子病理学
2 認知症症候学	1回	認知症の中核症状とBPSD	上原 隆	金沢医科大学 精神神経科学
	2回	老年期の精神障害と認知症	川崎 康弘	金沢医科大学 精神神経科学
	3回	老年期の気分障害と認知症	北村 立	石川県立高松病院 神経内科
	4回	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症	田中 悠二	埼玉県立精神医療センター
	5回	軽度認知障害	池田 篤平	石川県立中央病院 神経内科
	6回	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応	大黒 正志	金沢医科大学 高齢医学
3 診断学検査・	1回	認知症診療に必要な神経心理検査	東間 正人	医療法人社団青樹会 青和病院
	2回	認知症の画像検査1（CT, MRI, MIBG, DAT imaging）	吉田 光宏	独立行政法人国立病院機構 北陸病院
	3回	認知症の画像検査2（脳血流SPECT, FDG-PET, アミロイドPET）	松成 一朗	埼玉医科大学病院 核医学診療科
	4回	認知症の血液・脳脊髄液検査	篠原 もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
	5回	認知症の神経生理検査－脳波－	東間 正人	医療法人社団青樹会 青和病院
	6回	認知症診断のすすめ方	池田 篤平	石川県立中央病院 神経内科
4 予防学治療・	1回	認知症の治療総論（薬物、ケア、リハビリ、終末期医療をふくむ）	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター
	2回	高齢者の薬物動態	森本 茂人	金沢医科大学病院認知症センター
	3回	抗認知症薬	濱野 忠則	福井大学医学部 病態制御医学内科学（2）
	4回	BPSDの治療	橋本 隆紀	金沢大学大学院 精神行動科学
	5回	生活習慣と認知症予防	篠原 もえ子	金沢大学大学院 認知症先制医学講座
5 支援・リハビリケア・地域	1回	認知症のケアとリハビリの基本・原則	木戸 幹雄	富山大学附属病院 神経精神科
	2回	認知症ケアの実践	島崎 正夫	医療法人社団和敬会 谷野山山病院
	3回	認知症リハビリの実践	横川 正美	金沢大学保健学系理学療法科学
	4回	社会環境・資源1（認知症に関わる制度・政策）	北村 立	石川県立 高松病院
	5回	社会環境・資源2（生活支援と地域連携）	北村 立	石川県立 高松病院
	6回	認知症の人への配慮、法・倫理	北村 立	石川県立 高松病院
6 認知症各論Ⅰ	1回	アルツハイマー病	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
	2回	レビー小体型認知症	吉田 光宏	独立行政法人国立病院機構 北陸病院
	3回	前頭側頭葉変性症	鈴木 道雄	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
	4回	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症	坂井 健二	金沢大学附属病院 脳神経内科
	5回	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症	山田 正仁	金沢大学大学院 脳老化・神経病態学
7 認知症各論Ⅱ	1回	血管性認知症	高嶋 修太郎	JCHO 高岡ふしき病院
	2回	正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、頭部外傷	富岳 亮	金沢医科大学 氷見市民病院 脳神経内科
	3回	代謝性疾患、炎症性疾患、その他	林 浩嗣	新田塚学園福井医療短期大学 リハビリテーション学科
	4回	プリオン病	濱口 毅	金沢大学附属病院 脳神経内科
	5回	認知症と鑑別すべき精神疾患	高橋 努	富山大学大学院 医学薬学研究部神経精神医学講座
	6回	若年性認知症	濱野 忠則	福井大学医学部 病態制御医学内科学（2）

令和2年度 デメンシアカンファレンス及びデメンシアセミナー 開催実績

回	開催日	担当大学等	症例
第1回セミナー	5/26（火）	金沢大学	認知症予防を考える-エビデンス確立のために
第62回	6/9（火）	富山大学	筋萎縮性側索硬化症に認知症を合併した1例
第2回セミナー	7/21（水）	福井大学	認知症とタウ蛋白
第63回	8/3（月）	金沢医科大学	比較的急激に易怒性、攻撃性を呈し血管性の前頭型認知症が鑑別として疑われた症例
第64回	9/15（火）	金沢大学	亜急性に記憶障害が進行した抗LGI-1抗体陽性辺縁系脳炎の
第65回	10/20（火）	富山大学	アルコール離脱に伴い意識障害を呈し、巧緻運動障害と構音障害が残存した一例
第66回	11/24（火）	福井大学	臨床症状と画像検査で乖離した所見であった認知症の高齢者女性
第67回	12/16（水）	金沢医科大学	治療同意に難渋した一例
第68回	1/26（火）	金沢大学	混合性結合組織病（MCTD）の経過中、末梢神経障害と認知機能障害を認め、MRIで脳梁膨大部が異常信号を呈した1例
第69回	2/9（火）	富山大学	亜急性に進行した認知症で、MRIにて両側海馬に異常信号を呈した一例
第70回	3/10（水）	福井大学	原発性進行性失語の1例（1つの目安としての分類）

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザーボード評価表

評価日 2019 年 12 月 17 日

御所属 国立病院機構松江医療センター

氏名 中島 健二

*記入欄が不足する場合は、本様式の行を適宜増やしてください。

総合評価
<p><input checked="" type="checkbox"/> 良い</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>[]</p>
評価できる点
<ol style="list-style-type: none"> 1. 単独施設による企画ではなく、複数大学が連携したプログラムである点が特徴的である。 2. E-learning が整備され、北陸以外の受講者も多数ある点が評価できる。 3. 「問題解決型高度医療人材養成プログラム」終了後も、4 大学による「事業共同実施協定」による 4 大学による事業実施として進められている。 4. 平成 2 年度教育コース履修者の募集が予定され、今後も継続される予定であり、発展を期待したい。
改善を期待する点
<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修開始者数が平成 28 年度をピークに減少傾向である点が気になる。令和 2 年度を期待したい。 2. 修了者のその後の臨床現場での活動状況なども把握し、それを本プログラムに反映できるとさらに良いと思われる

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

アドバイザーボード評価表

評価日 2019 年 12 月 25 日

御所属 岡谷市民病院

氏名 天野 直二

総合評価
<div style="margin-left: 20px;"> <input checked="" type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある <input type="checkbox"/> その他 <div style="text-align: right;">[]</div> </div>
評価できる点
<p>(1) 4大学が連携をとりながら同一の目的で教育を展開している点、文科省の補助金が終了しても各大学で予算を組んで継続的に進められている点を高く評価します。</p> <p>(2) 人材養成プログラムに多くの可能性を求めて多種多様の教育を施行した点を評価します。教育コースの多様性は教育を受ける側からみると柔軟的に判断できます。そして認知症メディカルスタッフは何も医師、看護師に限らず 11 ページにあるように多職種に及んでいます。その点からも継続性を願います。</p>
改善を期待する点
<p>(1) 文科省の事後評価で、社会への情報発信が学内、県内に留まり、全国的な成果の普及・展開に向けた取り組みが不十分であると指摘されていますが、これはとても重要な今後の課題と考えます。どのような広報の方法があるのか、ぜひ検討してください。</p> <p>(2) 補助終了後に事業規模が小さくなった点も指摘されています。この点は確かにその通りですが、できることを着実に展開すべきと思います。縮小しても内容を担保するという考え方が基本と考えます。質の高い継続性を考えて進めてください。</p> <p>(3) 達成度から B 評価であったと推察します。充足の点から教育コースの見直しは必要かもしれません。各大学の自主的な活動になりますので柔軟的に判断していいものと考えます。</p> <p>(4) 外部委員の選定に留意いただきたいと記載されていますが、評価委員の姿勢、アドバイザーボードのあり方等の課題についてわかる範囲で教えてほしい。</p> <p>(5) “認知症対策基本法”の成立後はこのような活動は今まで以上に必要になってきます。教育、啓蒙という視点からますますの発展を願っています。</p>

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザーボード評価表

評価日 2019年 12月 24日

御所属 河北認知症を考える会・おきの内科医院

氏名 沖野 惣一

*記入欄が不足する場合は、本様式の行を適宜増やしてください。

総合評価
<p><input checked="" type="checkbox"/> 良い</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>[]</p>
評価できる点
<ol style="list-style-type: none">1. 令和元年も新規履修者が一定数あった。2. メディカルスタッフ e-learning 受講者が確実に増えており、1900名を超えるに至った。3. カンファレンスや研修会、公開講座が予定どおり遂行されており、特にディメンシアカンファレンスでは興味深いタイトルの症例検討が多施設の参加によって継続されている。
改善を期待する点
<ol style="list-style-type: none">1. 履修者に関して、金沢大学以外には新規登録者が少なく、他の大学においてもより多くの履修者を募ってほしい。2. 認知症ケアに関連して、認知症が高度に進行したときに生じる臨床上的の問題や対応等を近年推奨されている Advanced care planning の考え方も併せて e-learning 講義や講演会で取り上げていただければどうかと考えます。

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザーボード評価表

評価日 2019年12月25日

御所属 NHK制作局

氏名 矢島 ゆき子

*記入欄が不足する場合は、本様式の行を適宜増やしてください。

総合評価
<p><input checked="" type="checkbox"/> 良い</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>[]</p>
評価できる点
<ul style="list-style-type: none">・今年度もプログラムが継続し、履修・修了者がいることがわかりました。また定期的なカンファレンスなどもきちんと行われていたことがわかりました。・e-learning 講義などがさらに整理されたような印象をもちました。
改善を期待する点
<ul style="list-style-type: none">・e-learning 講義について、認プロがはじまった当初との比較ができなかったのですが、もし更新されたことがあるのであれば、その部分がわかるようになると、さらに使い勝手がよくなるのではないかと思います。・認プロHPをもっと使いやすくし、e-learning 講義シラバスなどだけでなく詳細情報を公開するともっと広く有効活用してもらえることがあるのではないかと思います。（予算の問題もあるかもしれませんが。）・継続されているデメンシアカンファレンスの内容についてのまとめなどが、認プロHPなどに掲載されてもいいのではないかと思います。・履修者の声などから特定の人感想などはわかりましたが、このプログラムに関わった多くの人意見がもっと反映され、さらにこのプログラムがさらに効果的に継続していくようになるとよいと思いました。

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

令和2年度 事業実施成果報告書

令和3（2021）年3月

編集・発行

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

北陸認プロ運営事務局

〒920-8640 石川県金沢市宝町13番1号

金沢大学医薬保健学域 医学類B棟

TEL:076-265-2149 FAX:076-234-4208

E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

<http://ninpro.jp/>

